

| 図録番号 | 登録番号 | 種別 | 形状 | 出土地点  |            | 法量 (cm)           | 外面調査            | 内面調査            | 備考 | 測布<br>次数 | 写真<br>図版 |
|------|------|----|----|-------|------------|-------------------|-----------------|-----------------|----|----------|----------|
|      |      |    |    | 出土遺構  | 層位         |                   |                 |                 |    |          |          |
| 1    | F-20 | 瓦  | 丸瓦 | SI143 | 堀橋土        | 縦37.5 横19.2 厚5.20 | 凸面 縄目すり消し、ヘラナデ  | 四面布目肌           |    | 15       | 657      |
| 2    | F-21 | 瓦  | 丸瓦 | SI143 | カマド<br>天舟部 | 縦33.0 横13.0 厚5.15 | 凸面 ヘラナデ         | 四面布目肌、ヘラナズリ     |    | 15       | 658      |
| 3    | G-9  | 瓦  | 平瓦 | SI143 | カマド<br>船底  | 縦22.4 横34.4 厚5.23 | 凸面 縄目すり消し、ヘラナズリ | 四面布目肌、ヘラナズリ、経巻肌 |    | 15       | 658      |

第174図 SI143 出土遺物 (2)

口部の中央から火熱により変色し、外面の風化した土師器C-91甕の下半が出土し、右ソデには桶巻作りのG-9平瓦(第174図3)、カマドの天井部には全長33cmのF-21丸瓦(第174図2)が設置されていた。

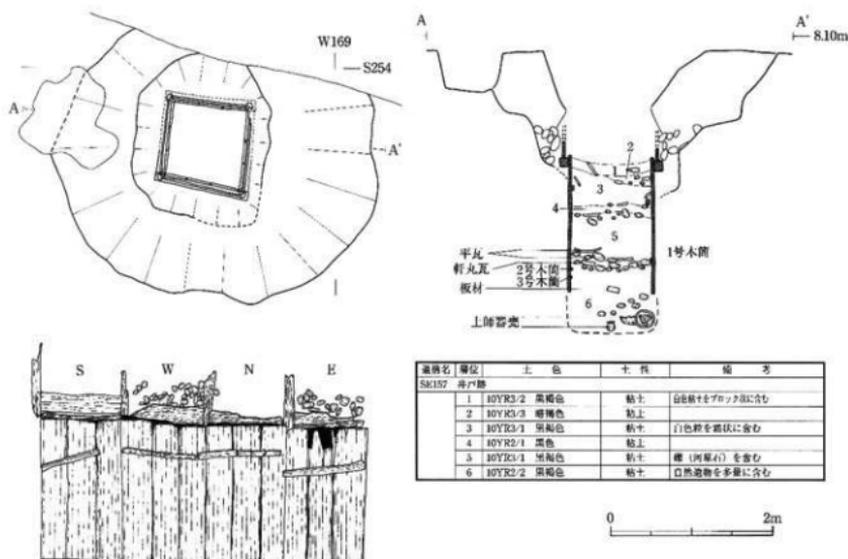
遺物は上記のほかに、床面上から内外面黒色処理された可能性のある土師器C-96・97坏(第173図7、5)、丸底で天井部に手持ちのヘラケズリが施されている須恵器E-69坏(第173図10)、小型で体部に段のあるE-73坏(第173図4)、床面上のP11から扁平で平底風の土師器C-98坏(第173図6)、内面にカエリのある須恵器E-94蓋(第173図1)、同様の特徴の須恵器E-92蓋が出土し、周溝の上面から土製品P-2羽口(第173図11)、周溝内の堆積土中から単弁蓮華文軒丸瓦F-9(第173図12)が出土している。

遺構の検出面上からは内面黒色処理されやや扁平な土師器C-90坏(第173図8)、体部に段のない丸底のC-102坏(第173図9)、内面にカエリのある須恵器E-51蓋(第173図2)、内面にカエリのないE-53蓋(第173図3)が出土している。堆積土中からも全長37.5cmのF-20丸瓦(第174図1)、内面黒色処理された小片の土師器C-104・105坏、C-52高坏、ハケメ調整の顕著な土師器C-49甕片、須恵器E-54盤の小片、内面にカエリのあるE-47蓋の小片、扁平なツマミのE-48蓋の天井部片、底部片のみのE-49高台付坏片などが出土している。

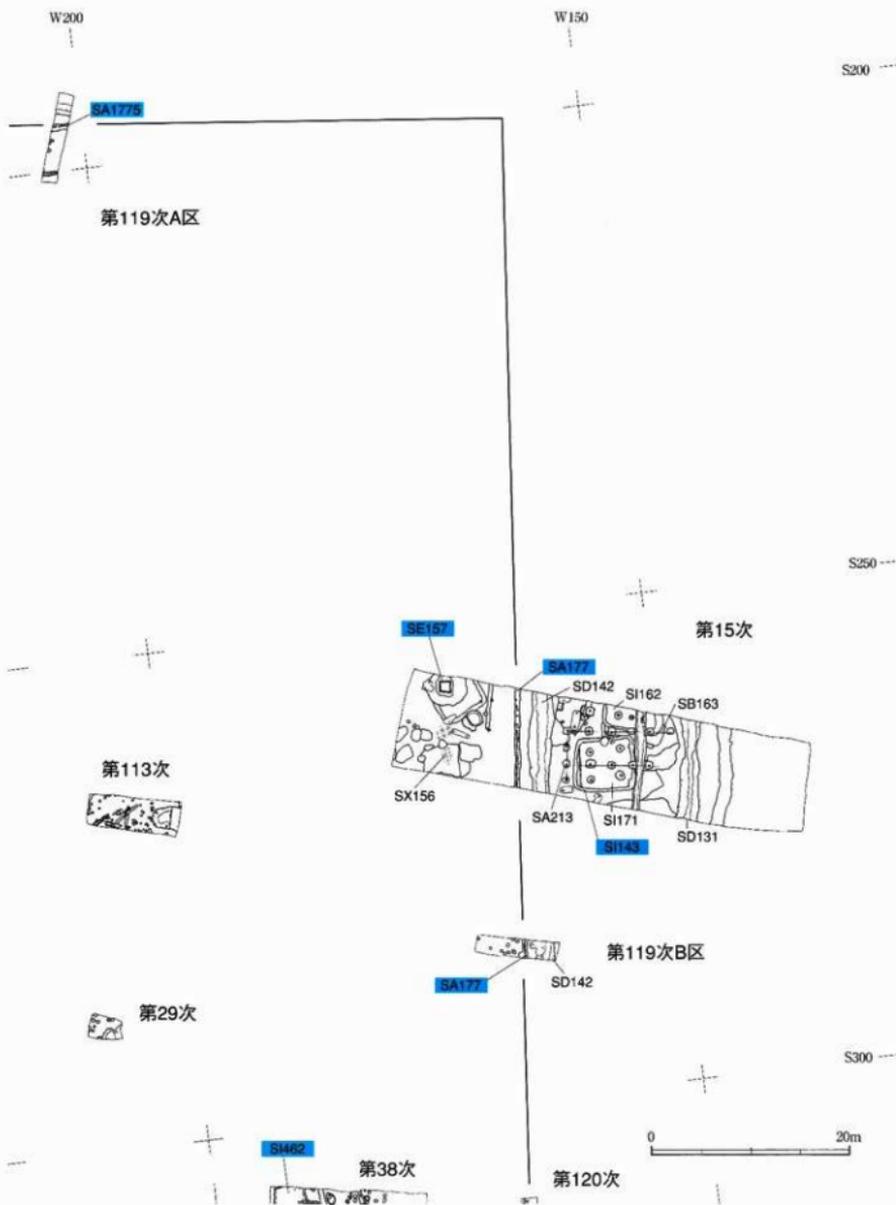
SI162、171壁穴住居跡を切り、SD139溝跡に切られている。

#### SE157井戸跡 (第15次・第175、176図)

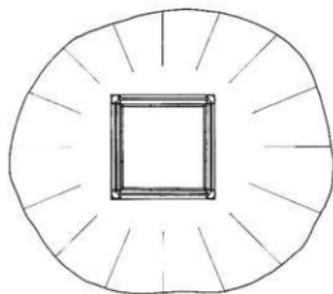
南北290cm以上、東西400cmのやや歪んだ楕円形の掘り方で、深さ150cmまでは壁が緩やかに狭まり、それより下部は直立気味となっている。底面までの深さは3.5mである。掘り方中には井戸枠が設置され、検出面より深さ130cmから300cmまでは木質の部材が残存している。枠組の残存状況から底面から45cm程上から井戸枠が組まれ、掘り方上面まで達していたと考えられる。底面については素掘りのままである。井戸枠の表込めとして掘り方の上



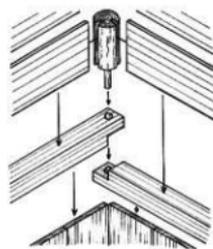
第175図 SE157 平・断面図



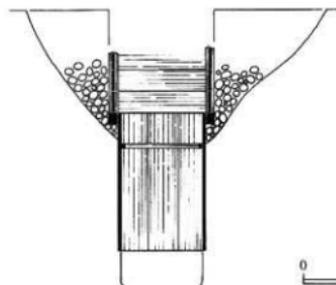
第176図 郡山廃寺北部2



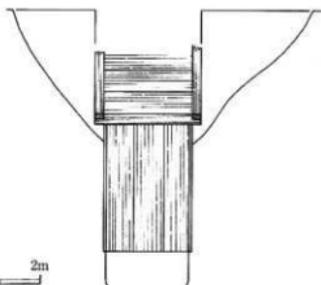
平面図



枠組の組み方



断面図



立面図

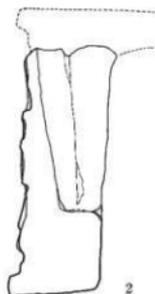
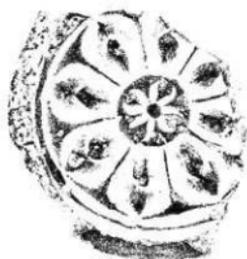
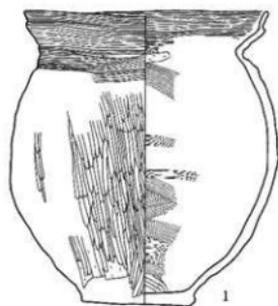
第177図 SE157 模式図

半部では、直径10~20cmの河原石が入れられていた。

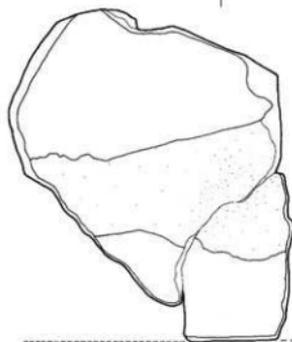
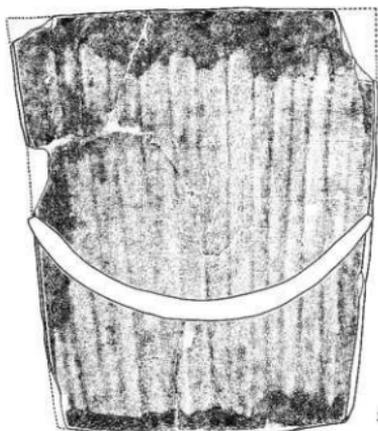
井戸枠の構造は、縦板組の下段と横板組の上段とからなっている。下段には一辺長さ172cm、幅35cm、厚さ5cmの板材を縦に3枚並べ、内側の中ほどよりやや上方に角材(6×3.5cm)を横桟として入れている。下段最上段の外側に角材(一辺30cm)を井桁状に組み、四隅には直径3.5cmの穴を穿いている。この穴に固定できるように上段の直径10cmの四隅柱材下端を直径3.5cm、長さ14cmの棒状に削っている。さらにこの柱材は幅7cm、深さ4cmの溝が2本彫られ、上方より横板材が寄り込まれるようになっている。これにより下段の縦板組より、ひと回り大きい横板組が存在したことを示している。

井戸枠内の堆積土は6層で、水平に堆積している。第1層は黒褐色粘土で、白色粘土をブロック状に含んでいる。第2層は暗褐色粘土で、礫を含んでいる。第3層は黒褐色粘土である。第4層は黒色粘土で、礫を含んでいる。第5層は黒褐色粘土で、層中で礫が面をなしている。第6層は黒褐色粘土である。

遺物は井戸枠内から、土師器、須恵器、瓦、鴟尾、木簡、動植物遺体等が出土している。第1層から第4層中までは、土師器、須恵器、瓦の小片が多いが、第6層中となる底面からは、ほぼ完形の土師器甕、壺が10個体ほど出土している。第5層中には礫が多く含まれるが、上層より頸部に段があり「く」の字状に口縁部に続く土師器C-82甕(第178図1)、周縁部が欠損しているが八弁の花弁を配し、團線の巡るF-15軒丸瓦(第178図2)、凸面縄叩きの後に入念にヘラケズリされ、凹面に桶巻き作りの痕跡が顕著なG-7平瓦(第178図3)、ナデによる成形痕跡を残すH-2

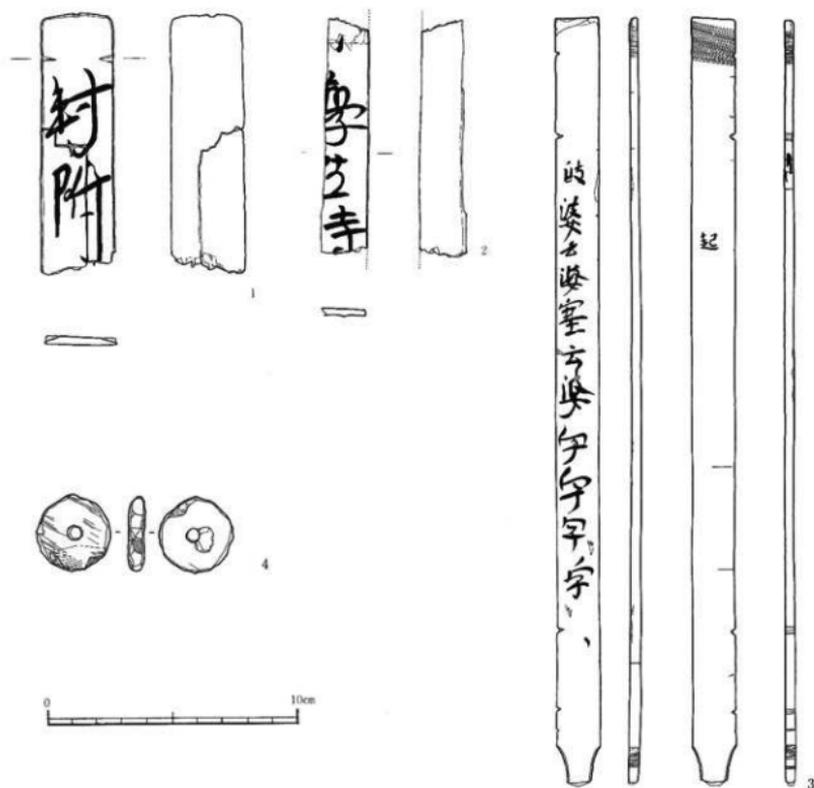


0 10cm



0 10cm

第178図 SE157 出土遺物 (1)

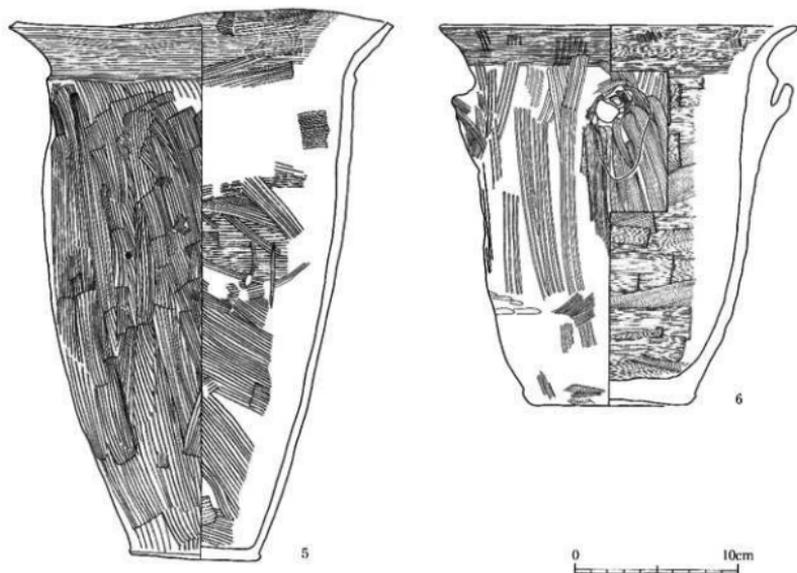
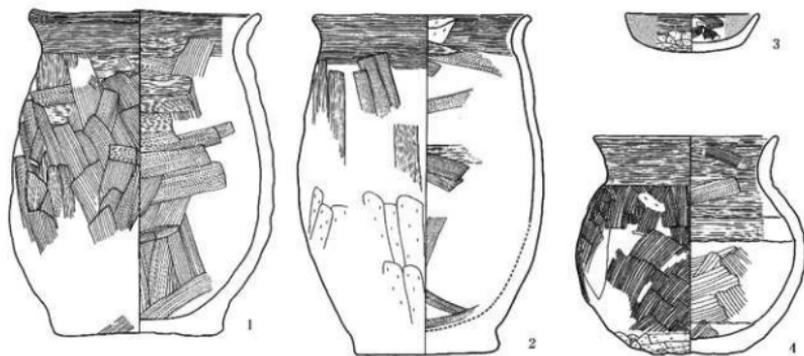


| 図版<br>番号 | 登録<br>番号 | 種類    | 器形  | 出土地点  |     | 数量 (cm)             | 特徴   | 調査<br>次数 | 写真<br>回数 |
|----------|----------|-------|-----|-------|-----|---------------------|--|----------|----------|
|          |          |       |     | 出土遺構  | 層位  |                     |  |          |          |
| 178-1    | C-82     | 土師器   | 壺   | SE157 | 瓦南  | 器高18.3 口径14.9 底径6.6 | 外周：口縁部ココナテ、体部ヘラナズリーヘラミガキ、底部ヘラナテ<br>内面：口縁部ココナテ、体部ヘラナテ、底部ナダテ | 15       | 660      |
| 178-2    | F-15     | 瓦     | 軒丸瓦 | SR157 | 5   | 直径15.1 中径14.5 厚さ5.3 | 思弁瓦平文、瓦高側面・瓦面瓦葺ケズリ   | 15       | 660      |
| 178-3    | G-7      | 瓦     | 平瓦  | SE157 | 5   | 縦44.0 横36.2 厚さ2.3   | 内面瓦葺キ直、内面焼付キヘラケズリ  | 15       | 639      |
| 178-4    | H-2a     | その他の瓦 | 焼尾  | SF157 | 焼尾  | 縦16.0 横13.9 厚さ1.1   | ナテによる成形痕、調整痕跡あり  | 15       | 661      |
| 178-5    | H-2b     | その他の瓦 | 焼尾  | SL157 | 割り方 | 縦13.4 横11.9 厚さ1.7   | ナテによる成形痕、調整痕跡あり  | 15       | 661      |
| 179-1    | M-2      | 木製品   | 木筒  | SE157 | 5   | 長さ10.4 幅2.0 厚さ0.3   | 第1号「封附」、切り込みあり、縦目材   | 15       | 661      |
| 179-2    | M-3      | 木製品   | 木筒  | SR157 | 6   | 長さ9.6 幅1.8 厚さ0.3    | 第2号「閉塞室」、縦目材   | 15       | 661      |
| 179-3    | M-1      | 木製品   | 石   | SE157 | 6   | 長さ31.4 幅1.8 厚さ0.4   | 第3号「石」、「波婆古婆室」文字ナズリ、切り込み、墨痕、層目あり                           | 15       | 661      |
| 179-4    | K-1      | 石製品   | 瓦瓦片 | SR157 | 5   | 直径3.1               | 同形   | 15       | 660      |

第179図 SE157 出土遺物 (2)

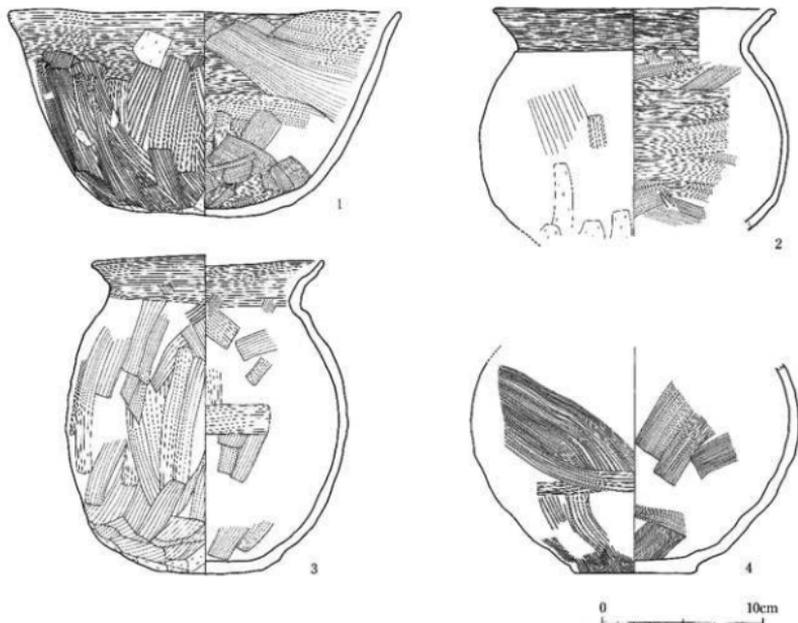
焼尾(第178図4、5)、貫通孔を持つ直径3.1cmの円形のK-1石製品(第179図4)などが出土している。この他に「封附」と墨書され、上端より約1.8cm下に切り込みのある第1号木筒(第179図1)が出土している。

第6層中からは、最大径が口縁部にあるハケメ調整の顕著な長胴形の土師器C-77甕(第180図5)、最大径が体部にあり口縁部の短い土師器C-76・80甕(第180図1、2)、把手状の突起が4つ張り付き最大径が口縁部にあるハケメ調整の顕著な土師器C-83甕(第180図6)、体部が球形の土師器C-78・79甕(第181図4、2)、最大径が球形の体



| 図版<br>番号 | 資料<br>番号 | 種類  | 器形 | 出土地点  | 出土遺物<br>部位 | 法量 (cm)              | 外面調整                              | 内面調整                         | 備考                     | 調査<br>次数 | 写真<br>回数 |
|----------|----------|-----|----|-------|------------|----------------------|-----------------------------------|------------------------------|------------------------|----------|----------|
| 1        | C-76     | 土師器 | 甕  | SE157 | 底面         | 唇高19.9 口径11.2 底径10.3 | 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ                    | 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ               | 口                      | 15       | 600      |
| 2        | C-80     | 土師器 | 甕  | SE137 | 底面         | 唇高21.0 口径13.0 底径8.7  | 口縁部ヨコナデ。唇部ヘラナデ。下唇ヨコナデ。底面調整        | 口縁部ヨコナデ。唇部ヘラナデ。下唇ヨコナデ。体部ヘラナデ | 口                      | 15       | 600      |
| 3        | C-72     | 土師器 | 罎  | SK137 | 底面         | 唇高2.4 口径8.2 底径6.0    | 口縁部ヨコナデ。唇部調整ヨコナデ。唇部ヨコナデ。底面調整      | 口縁部ヨコナデ。唇部ヘラナデ。底面調整          | 内面にカーボン<br>付着あり。入刀跡    | 15       | 600      |
| 4        | C-84     | 土師器 | 甕  | SE157 | 底面         | 唇高13.5 口径10.6 底径4.4  | 口縁部ヨコナデ。唇部ヘラナデ。唇部調整               | 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ               | 口                      | 15       | 600      |
| 5        | C-77     | 土師器 | 甕  | SE137 | 底面         | 唇高33.9 口径23.5 底径7.8  | 口縁部ヨコナデ。唇部ハケメ。底面ヘラナデ              | 口縁部ヨコナデ。唇部ヘラナデ               | A 1 b                  | 15       | 600      |
| 6        | C-83     | 土師器 | 甕  | SK137 | 底面         | 唇高23.5 口径22.0 底径9.5  | 口縁部ハケメ。ヨコナデ。体部ヘラ<br>メ。下唇ヘラナデ。底面調整 | 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ               | 唇部調整(400倍)<br>参照図版A11a | 15       | 600      |

第180図 SE157 出土遺物 (3)



| 図版番号 | 発掘番号 | 種類  | 形状 | 出土層位<br>出土遺物 | 技法 (cm)       | 外周調整                 | 内周調整          | 備考  | 調査<br>次数 | 下高<br>図版 |
|------|------|-----|----|--------------|---------------|----------------------|---------------|-----|----------|----------|
| 1    | C-85 | 土師器 | 鉢  | SE157 灰面     | 器高12.6 L径24.2 | 1面削り出し、2面削り出し、3面削り出し | ヘラナデ          | 1   | 15       | 660      |
| 2    | C-79 | 土師器 | 壺  | SK157 灰面     | 残高13.2 L径16.8 | 1面削り出し、2面削り出し、3面削り出し | 1面削り出し、2面削り出し | 1   | 13       | 660      |
| 3    | C-81 | 土師器 | 壺  | SE157 灰面     | 器高19.8 L径14.2 | L面削り出し、R面削り出し        | L面削り出し、R面削り出し | B12 | 15       | 660      |
| 4    | C-78 | 土師器 | 壺  | SK157 灰面     | 残高15.0 底径7.9  | 1面削り出し、2面削り出し        | 1面削り出し、2面削り出し | 15  | 660      |          |

第181図 SE157 出土遺物 (4)

部にある小型の土師器C-84壺(第180図4)、最大径が体部にあり丸底の土師器C-81壺(第181図3)、口径が器高より大きくハケメ調整の顕著な土師器C-83鉢(第181図1)、さらに土師器甕底部片が2個体分、平底となる坏底部片が1点など出土している。

この他に第6層中から木簡が2点出土している。第2号木簡(第179図2)は長さ9.5cm、幅1.8cm、厚さ0.3cmで、上下端と左側面が欠損している。「□學生寺×」と墨書されている(註21)。第3号木簡(第179図3)は長さ31.4cm、幅1.8cm、厚さ0.4cmで、下端を幅0.9cm程に削り出している。両面に墨書があり、「起」と書かれた面と、災導で「波婆云婆寒云婆字字字」と書かれた面がある。仮に「波婆云…」と書かれた面をa面、「起」と書かれた面をb面とすると、b面の右側面に切り込みが7箇所、a面の下端に1箇所ある。切り込みの大きさは3種類あり、幅や深さが異なっている。b面の上部に幅2cmで擦痕が見られる。なお木簡の詳細に関しては仙台市文化財調査報告書第38集『郡山遺跡Ⅱ』を参考にいただきたい。

掘り方の灰詰め石の中から、SX156瓦溜め跡や井戸跡内の堆積土中から出土した鶏尾と同一個体のH-3鶏尾片が出土している。

**SA177材木列—郡山廃寺東辺—** (第15、119次・第176図)

直径10~15cmの丸材をN-1°-Wの方向に密接に立て並べている。掘り方は上幅40~53cm、下幅25~32cm、深さは14~16cm(第15次)と40cm(第119次)である。検出された箇所により、材木の先端が杭状に尖っている所がある(第15次)。また東辺上の中央付近では掘り方が上幅85~91cm、下幅60cm程、深さ100cmとなり、柱痕跡も25cmとなって柱穴状の掘り方を呈している(第119次)。方四町Ⅱ期官衙の南門や南辺の南西コーナー部、廃寺の南辺と南門との接続箇所でも見られるあり方である。よって第119次調査B区の南には材木列と接した門等の遺構が存在することを想定しておく。

**SA1775材木列—郡山廃寺北辺—** (第119次・第176図)

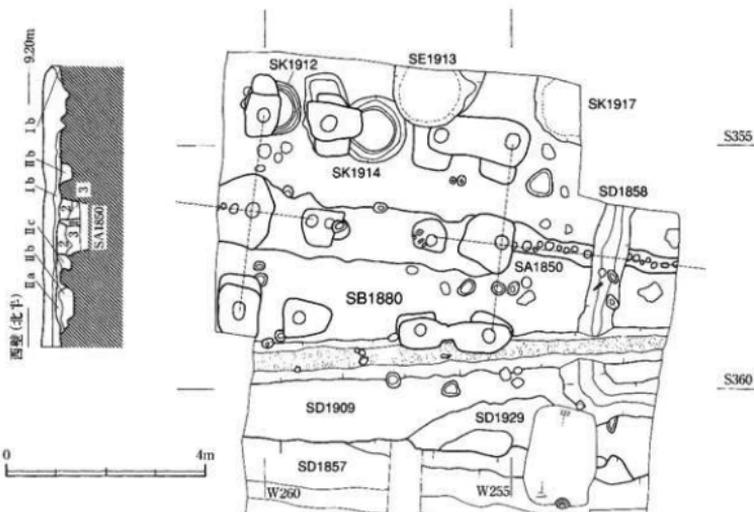
直径12~20cmの丸材をE-3°-Nの方向に密接に立て並べている。掘り方は上幅52~74cm、下幅43~57cm、深さは25~35cmである。掘り方の断面形はU字形である。第62次調査区で検出したSA830材木列と連続していると考えられる。

**SB180A・B建物跡—郡山廃寺南門—** (第128次・第182、183図)

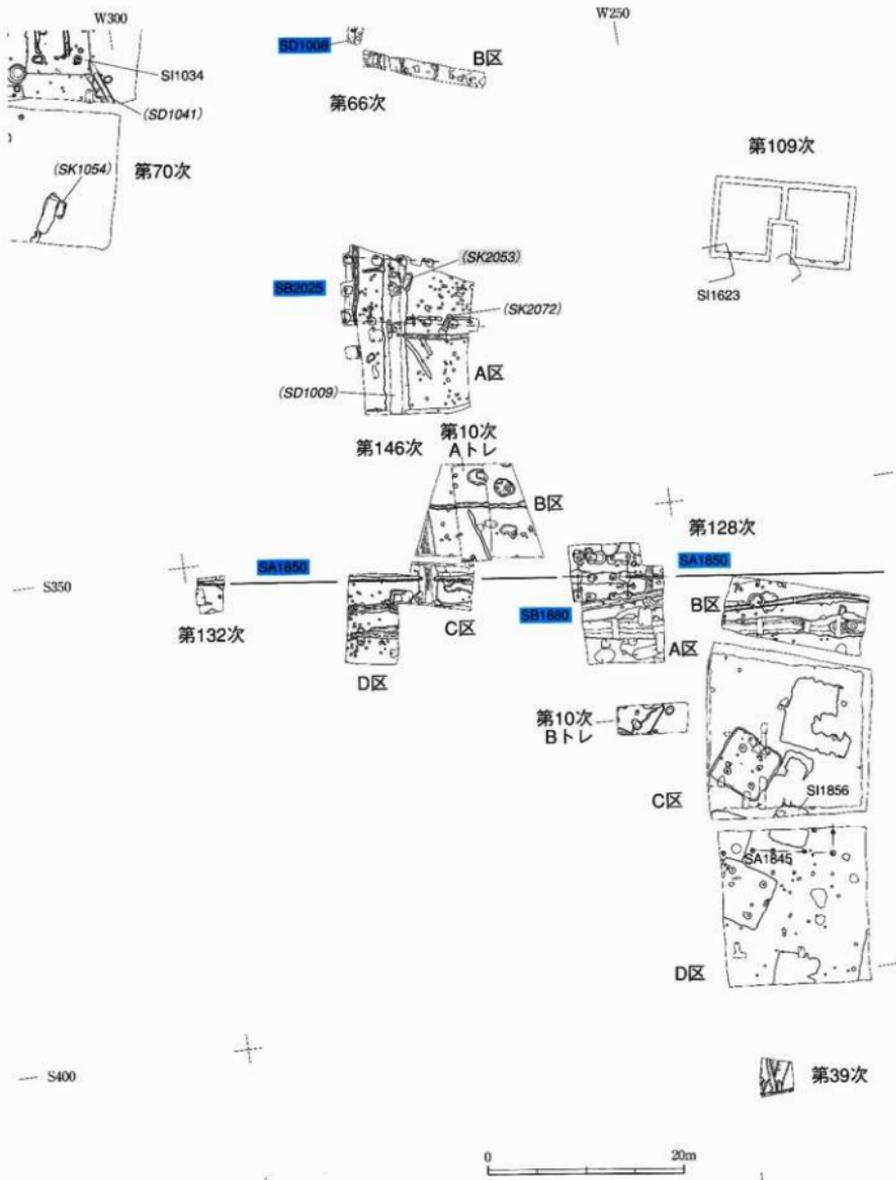
A(旧)からB(新)への建替えがあり、Bは桁行3間、総長5.1m(柱間寸法130~140cm・230cm)、梁行2間、総長4.1m(柱間寸法205cm)の東西棟の建物跡で、西梁行の方向はN-0°-E(真北)である。柱穴は一辺70~110cmのやや歪んだ隅丸方形のものが多い。建物跡東半部のN1、N3柱穴掘り方は、柱2本分の掘り方が連結している。またN2E2とN2E3の柱穴掘り方は、他の掘り方より小規模である。柱痕跡は20~30cmの円形である。Bの柱穴掘り方に切られるAの柱穴掘り方が見られる箇所がある。桁行の中央の柱間が広くなっていることや、棟通りにSA1850材木列が取り付くことから、門跡と考えられる。なおN2E4の柱痕跡はSA1850材木列の掘り方の中に取り込まれている。

遺物はN2E2のB柱穴掘り方から陶尾H-22・23が、N1E4のB柱穴掘り方からも陶尾H-24が出土している。この他の柱穴掘り方からも土師器、須恵器片や平瓦片が少量出土している。

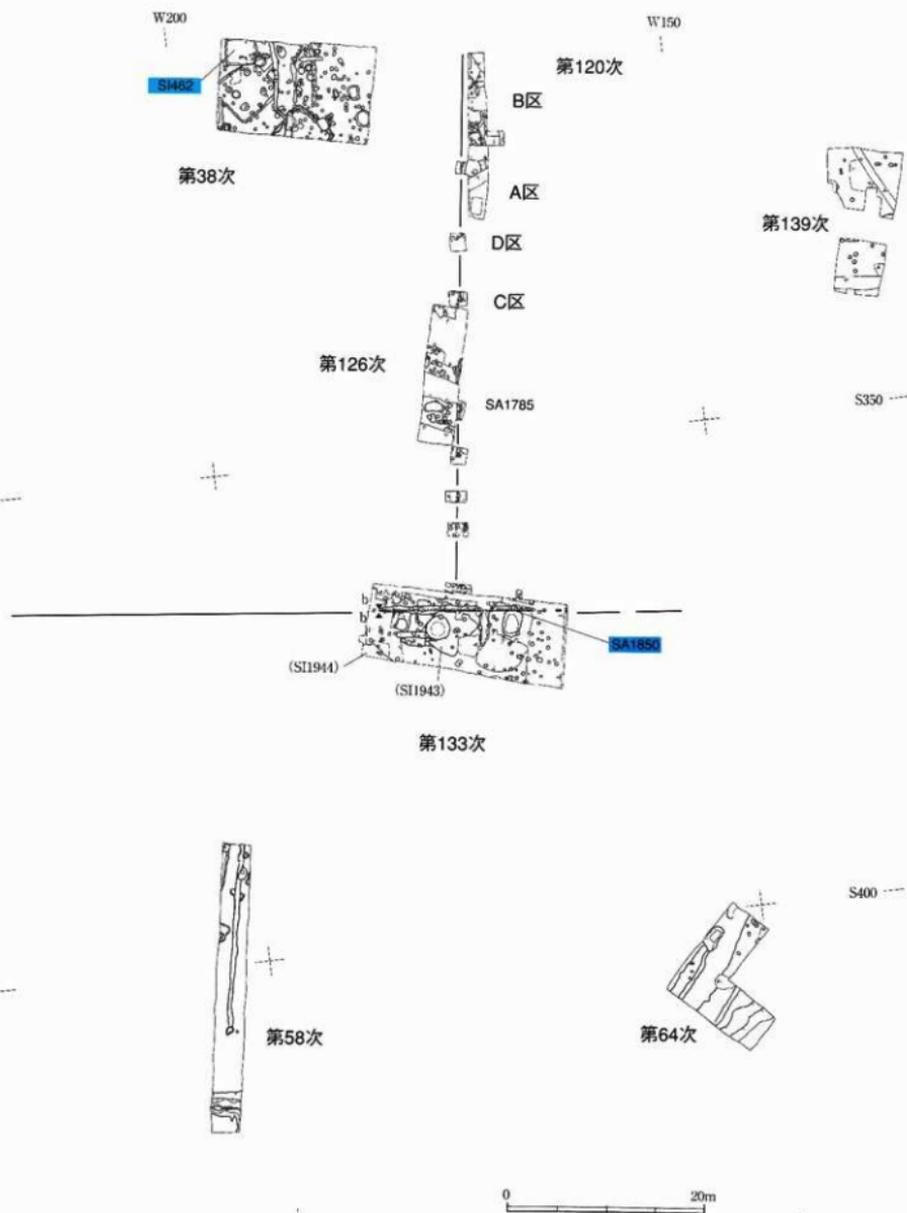
SD1858・1909溝跡、SK1912・1913・1914土坑に切られている。



第182図 第128次調査区A区 平・断面図 -SB1880周辺-



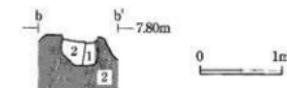
第183回 郡山廃寺南部1



第184回 郡山廃寺南部2

SA1850A・B材木列—郡山庵寺南辺—(第128、132、133、146次・第183、184図)

直径10~25cmの丸材をE-0°-S方向に密接に立て並べている。掘り方は上幅30~60cm(第128、132次)あるいは一部では70~90cm(第133次)となり、門跡内を通過する第128次調査区内では100~150cmとなっている。なおSB1880建物跡の柱がSA1850の掘り方を利用して設置されている箇所がある。掘り方の深さは20~60cmであるが、底面は掘り下げた地点により様相が異なり、底面に小形の掘り方があり柱が設置されているところ(第133次)や掘り方の深さが一定していないところ(第146次)などがある。また第146次調査で抜き取りの痕跡を検出している。



| 単位     | 上       | 色      | 上 | れ  | 留 | 考      |
|--------|---------|--------|---|----|---|--------|
| SA1850 |         |        |   |    |   |        |
| 1      | 10YR2/1 | 褐色     |   | 粘土 |   | 柱痕跡    |
| 2      | 10YR4/3 | こげい黄褐色 |   |    |   | シルト質粘土 |

第185図 SA1850 断面図

遺物は第133次調査区での掘り方中より、平瓦G-105(写真図版762)、土師器甕底部片などが出土している。

SI1942・1943・2073竪穴住居跡、SX2074性格不明遺構を切り、SB1880建物跡、SD1009・1858溝跡、SK1932・1937・1938土坑に切られている。

SB2025建物跡(第146次・第183図)

桁行5間以上、総長10.8m以上(柱間寸法250~280cm)、梁行2間、総長6.5m(柱間寸法320~330cm)の東西棟の建物跡で、南桁行の方向はE-3°-Sである。柱穴は一辺70~110cm程の隅丸方形で、柱痕跡は直径20~30cmである。柱穴には抜き取り穴が認められず、柱痕跡中に炭化物、焼土が含まれていることから、焼失したものと考えられる。

遺物は掘り方中ではS1W4から平瓦G-116片が土師器の小片と共に出土している。同じくS1W5、S2W1、S3W2、S3W4の掘り方から瓦の小片が出土している。またS1W3、S2W1を除き各掘り方よりは、土師器の小片が少量出土している。

柱痕跡からもS3W2の上層よりロクロ使用の土師器で回転糸切り無調整の底部片が出土し、S3W1からもロクロ使用の土師器小片が出土している。さらにS1W5から瓦の小片、S1W2、S1W3、S3W4の柱痕跡からも土師器の小片が少量出土している。柱痕跡から出土した遺物については、建物の焼失した時期のものと考えられる。

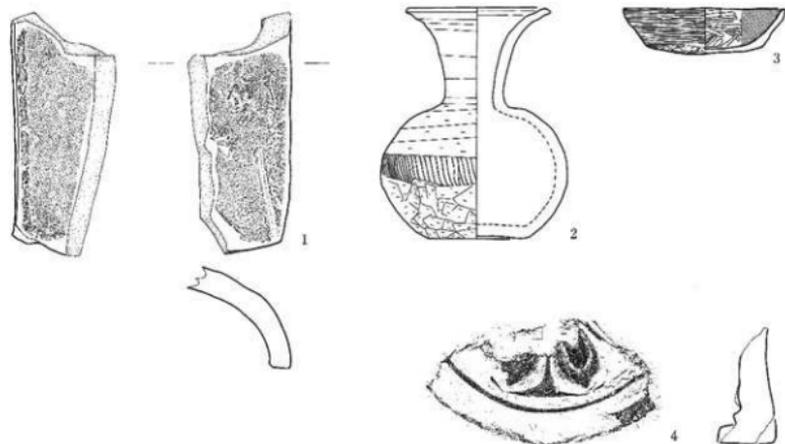
SD2025溝跡、SK2027土坑、SX2074性格不明遺構を切り、SD1009溝跡に切られている。

SI462竪穴住居跡(第38次・第68、184図)

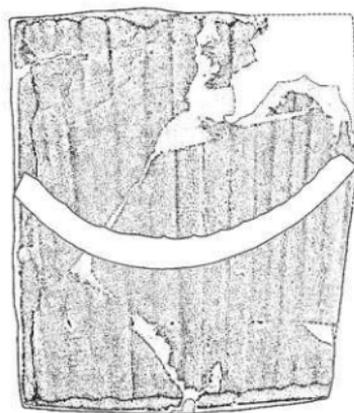
南北2.5m、東西3.2mの隅丸方形と見られる。北東部のみが調査区外に延びている。壁高が10~20cm残存しているが、周溝や貼床、柱穴などは認められなかった。東壁南よりにカマドを有し、両側にソデ石を配置して左ソデ外側から煙道にかけて桶巻き造りのG-17平瓦を設置している。右ソデはSK460土坑に切られているが、瓦の出土状況から左ソデと同じ状況であったと考えられる。また天井部には凝灰岩切石を用いている(写真図版204)。煙道はカマド奥壁から立ち上がり、長さ130cm、深さ10cm、先端部の煙出しは円形で直径30cm、深さ20cmのピット状を呈する。煙道ならびにカマド中央を通る方向は、E-2°-Sである。

遺物は底面から小振りの内面黒色処理された土師器C-401坏(第186図3)、カマド右袖の外側から体部中央に棒状の叩き痕跡が巡る須恵器E-183長頸壺(第186図2)、カマド左ソデから煙道にかけて横骨痕跡の明瞭なG-17平瓦(第186図5)、カマド内の堆積土中からはヘラ状工具による痕跡のあるF-28丸瓦(第186図1)、堆積土第1層中から残存長5.7cm、身幅2cmの鉄製品N-6刀子、検出面上からは小片のF-26軒丸瓦片(第186図4)などが出土している。

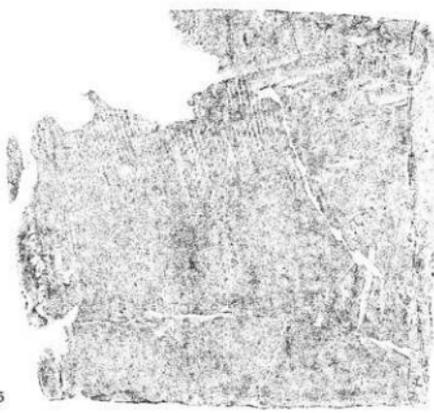
SI463竪穴住居跡を切り、SK460土坑に切られている。



0 10cm



5



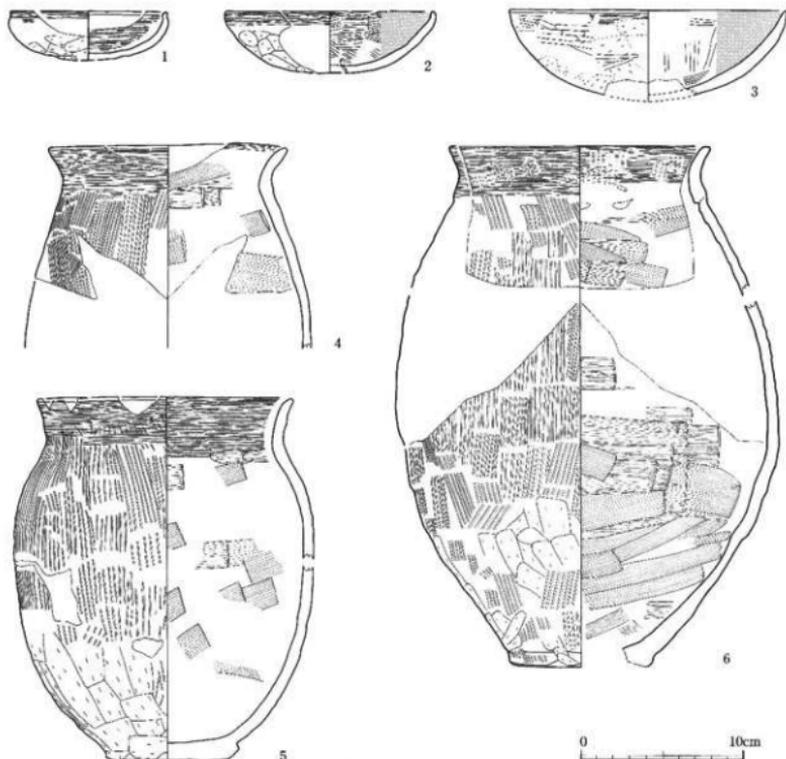
0 10cm

| 国取<br>番号 | 発見<br>番号 | 種類  | 器形 | 出土地点<br>出土遺構   層位 | 法量 (cm) | 外面調査                | 内面調査  | 備考         | 調査<br>年度 | 写真<br>採取 |     |
|----------|----------|-----|----|-------------------|---------|---------------------|---|------------|----------|----------|-----|
| 1        | F-28     | 瓦   | 丸瓦 | S162              | キツ      | 長さ14.2 幅5.4 厚さ1.6   | 凸面ヘラナシ  | 凹面布目模      |          | 38       | 698 |
| 2        | E-183    | 須恵器 | 高脚 | S162              | キツ      | 器高14.3 口径8.8 底径6.0  | 口縁部-帯彫ロケナシ、身部凹面ヘラナシ、帯<br>底の両向き片・ヘラナシ、底縁部凸面ヘラナシ? | ロケロナシ      |          | 38       |     |
| 3        | C-401    | 土師器 | 埴  | S162              | キツ      | 器高13.8 口径10.0 底径7.2 | 口縁部-帯彫ロケナシ、底縁部凸面ヘラナシ?                           | ヘラミナシ、黒色施漚 | A層 2     | 38       | 698 |
| 4        | F-26     | 瓦   | 丸瓦 | S162              | 遺構上     | 底径 (19.0) 厚 5.3.3   | 単方深平文   | 丸凸縁面ヘラナシ   |          | 38       | 698 |
| 5        | G-17     | 瓦   | 平瓦 | S162              | キツ      | 縦60.4 横34.7 厚 5.3.3 | 凸面縁部凸面すり筋シ                                      | 凹面布目模、縁巻   |          | 38       | 698 |

第186図 S162 出土遺物

【Ⅱ期官衙出土のその他の遺物】

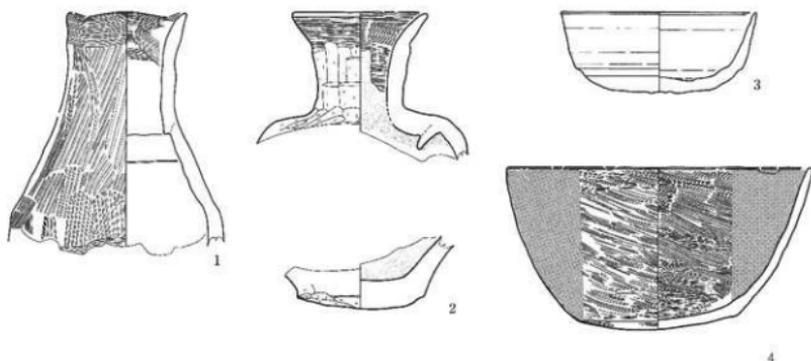
ここからは各遺物の記述はしないが、Ⅱ期官衙、郡山廃寺から出土した遺物の中で重要なものを掲載する。遺物の詳細については、次に載せたⅡ期官衙遺構表、あるいは年度毎に発刊している「発掘調査概報」や該当の報告書を参照していただきたい。



1号住居跡 [昭和54年度調査区]

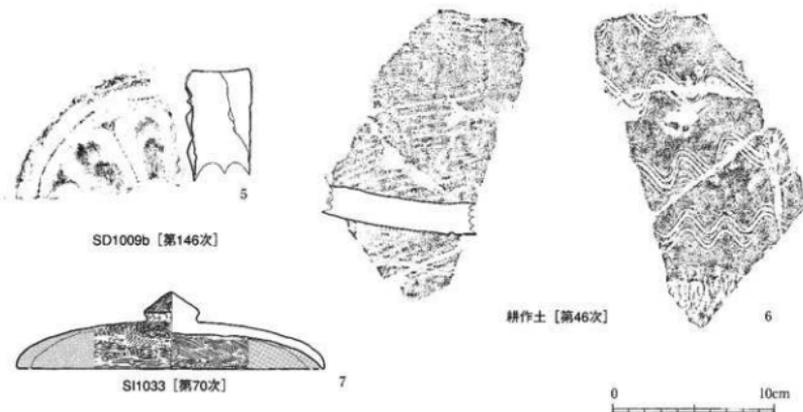
| 図版<br>番号 | 分類<br>番号 | 種類  | 器形 | 出土地点          | 寸法 (cm)                           | 外装調査                                     | 内装調査                       | 備考       | 調査<br>年度 | 写真<br>図版 |
|----------|----------|-----|----|---------------|-----------------------------------|--|----------------------------|----------|----------|----------|
| 1        | C7a      | 土師器 | 杯  | 西土遺構<br>付居跡Ⅲ区 | 口径30 □径 19.8<br>器高3.8             | 口縁部ヨコナデ、底面ヘラナズリ                          | ヨコナデ                       | B8       | 59年      | 637      |
| 2        | C7a      | 土師器 | 杯  | 1号住居<br>遺跡Ⅲ区  | 口径32.8 □径 22.0<br>残存高3.2 □径 17.0  | 口縁部ヨコナデ、底面ヘラナズリ                          | ヘタミゴホ、黄色地膚                 | A N 1a   | 59年      | 637      |
| 3        | C7a      | 土師器 | 杯  | 1号住居<br>遺跡Ⅲ区  | 口径32.8 □径 17.0                    | 口縁部ヨコナデ、底面ヘラナズリ                          | ヘタミゴホ、黄色地膚                 | A N 1a   | 59年      | 637      |
| 4        | C7a      | 土師器 | 壺  | 1号住居          | 口径22.5 □径 15.5<br>残存高12.5 □径 14.7 | 口縁部ヨコナデ、底面ヘラナズリ                          | 口縁部ヨコナデ、底面ヘラナズリ            | 図録表Ⅱ, 31 | 59年      | 637      |
| 5        | C7a      | 土師器 | 壺  | 1号住居          | 口径22.5 □径 15.5<br>残存高12.5 □径 14.7 | 口縁部ハケメヘラナズリ、各部1号ハケメ<br>下ハケメヘラナズリ、底面ヘラナズリ | 口縁部ヨコナデ、底面ヘラナズリ            | H 12     | 59年      | 637      |
| 6        | C7a      | 土師器 | 壺  | 1号住居          | 口径16.0 器高8.8                      | 口縁部ハケメヘラナズリ、各部1号ハケメ<br>下ハケメヘラナズリ、底面ヘラナズリ | 口縁部ハケメヘラナズリ、底面・底面<br>ヘラナズリ | H 14     | 59年      | 637      |

第187図 Ⅱ期官衙出土遺物 (1)



7号土坑 [昭和54年度調査区]

SI1 [第1次]



SD1009b [第146次]

耕作土 [第46次]

SI1033 [第70次]

| 図物番号 | 資料番号    | 種類  | 形状 | 出土地点<br>坑中遺構 層位 | 測量 (cm)              | 外面調査         | 内面調査                 | 備考                    | 調査<br>次数 | 写真<br>回数 |    |
|------|---------|-----|----|-----------------|----------------------|--------------|----------------------|-----------------------|----------|----------|----|
| 1    | C-79-30 | 土師器 | 壺  | 7号土坑            | 4                    | 口径15.0 口徑7.2 | 口縁部コナテ、胴部・底面ハナテ→ヘラナテ | 口縁部コナテ→ヘラナテ、胴部ヘラナテ    | 透視図、Ⅱ    | 58回      |    |
| 2    | C-79-29 | 土師器 | 鉢  | 7号土坑            | 4                    | 口径8.3 底径7.8  | 口縁部コナテ、胴部→底面ヘラナテ     | 口縁部コナテ→ヘラナテ、胴部・底面ヘラナテ | 透視図、Ⅱ    | 54回      |    |
| 3    | C-6     | 土師器 | 杯  | SI1             | 床面                   | 器高4.9 口径11.9 | 口縁部コナテ               | 口縁部コナテ                | 1回       | 1        |    |
| 4    | C-2     | 土師器 | 碗  | SI1             | 器高10.05 口径18.8 底径9.7 | ヘラナテ         | ヘラナテ                 | ヘラナテ                  | 1回       | 1        |    |
| 5    | F-66    | 瓦   | 葺瓦 | SD1009b         | 表層 (160)             |              | 早弁湯釜文                | 瓦有黄斑、瓦有黄斑ヘラナテ         |          | 1回       | 2回 |
| 6    | C-28    | 瓦   | 平瓦 | 耕作土             | 幅20.1 長さ9.9 厚さ1.9    |              | 凸面押き目すり消し→成文         | 凹面、すり目、赤切り痕           |          | 3回       | 2回 |
| 7    | C-632   | 土師器 | 壺  | SI1033          | 床面                   | 器高4.73 口径9.4 | ヘラナテ、つゞみ1部ヘラナテ       | ヘラナテ                  |          | 7回       |    |

第188図 Ⅱ期官衛出土遺物 (2)



SB950 [第65次]



S1200 [第65次]



SI964 [第65次]



| 図録<br>番号 | 器種          | 素材  | 出土施設  | 位置 | 法量 (cm)             | 外面調整                 | 内面調整       | 備考     | 調査<br>回数 | 写真<br>掲載 |
|----------|-------------|-----|-------|----|---------------------|----------------------|------------|--------|----------|----------|
| 1        | 中皿          | 灰土胎 | SI960 | 床面 | 高さ4.3 口径17.3        | ロクロナデ、人形器同ヘラケズリナデ    | ロクロナデ      | I 2a   | 65       |          |
| 2        | PC18<br>土師器 | 灰   | SI200 | 床面 | 高さ3.0 L1径13.0 底径6.6 | L1縁部ヨコナデ、各部ヘラケズリ     | ヘラミガキ、黒色処理 | 西陽館、AT | 65       |          |
| 3        | WC48<br>土師器 | 灰   | SI964 | 壁際 | 残存高さ2.3 L1径10.0     | L1縁部ヨコナデ、底部ヨコナデヘラケズリ | ヘラミガキ、黒色処理 | A 1    | 65       |          |
| 4        | PC36<br>土師器 | 灰   | SI964 | 壁際 | 残存高さ3.3 L1径12.1     | L1縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ     | ヘラミガキ、黒色処理 | A 112  | 65       |          |
| 5        | WC34<br>土師器 | 灰   | SI964 | 壁際 | 残存高さ3.3 L1径10.9     | ヘラミガキ、黒色処理           | ヘラミガキ、黒色処理 | A 11b  | 65       |          |

第189図 II期官衛出土遺物(3)

(掘立柱建物跡1)

| 図録<br>番号                | 規模 (m)<br>桁行×梁行 | 間数<br>桁行×<br>梁行 | 柱間 (cm)<br>桁行・梁行    | 主軸方向    | 特徴          | 重 複                                  | 本書掲<br>載箇所    | 備 考              |
|-------------------------|-----------------|-----------------|---------------------|---------|-------------|--------------------------------------|---------------|------------------|
| 2号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査)  | 5.1×4.4         | 2×2             | 230~260・<br>200~240 | E-1°-N  | 竪柱建物        | 1-A・B、15号溝跡に切ら<br>れている(建て替え)         | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P9        |
| 3号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査)  | 2.7以上<br>×6.3   | 2以上<br>×3       | 270・210             | E-6°-N  | 南北棟<br>(推定) | 13号溝を切っている                           | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P11       |
| 4号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査)  | 4.8以上<br>×4.7   | 3以上<br>×2       | 240・<br>210、250     | N-1°-W  | 南北棟         | 5号掘立柱建物跡に切ら<br>れている                  | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P11       |
| 5号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査)  | 6.6以上           | 3以上             | 220                 | E-35°-N | 不明          | 4号掘立柱建物跡を切っ<br>ている                   | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P11 壁材出土  |
| 6号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査)  | 不明              | 不明              | 240                 | E-3°-N  | 不明          | 11号、12号溝跡に切ら<br>れている(建て替え)           | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P11       |
| 7号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査)  | 7.6以上<br>×5.8以上 | 4以上<br>×2以上     | 250、270・<br>280~300 | N-4°-E  | 南北棟         | 10号、12号掘立柱建物跡<br>を切っている              | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P11       |
| 8号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査)  | 6.3以上<br>×4     | 3以上<br>×2       | 210・200             | N-6°-E  | 東西棟         | 1、2、3号土壌に切ら<br>れている                  | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P12       |
| 9号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査)  | 6.9以上<br>×4.2以上 | 4以上<br>×2以上     | 210~240<br>・210     | N-3°-E  | 南北棟         | 3号土壌に切ら<br>れている                      | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P12       |
| 10号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査) | 8.1以上<br>×4.8以上 | 3以上<br>×2以上     | 270・240             | N-4°-E  | 不明          | 7号掘立柱建物跡に切ら<br>れ、12号掘立柱建物跡を切っ<br>ている | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P12       |
| 11号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査) | 4.8以上<br>×4.2   | 2以上<br>×2       | 240以上<br>・240       | N-5°-E  | 南北棟         | 1、4号土壌に切ら<br>れている                    | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P12       |
| 12号掘立柱建物跡<br>(昭和54年度調査) | 不明              | 4以上             | 不明                  | N-4°-E  | 不明          | 7号掘立柱建物跡に切ら<br>れている                  | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P12       |
| SB163                   | 10.2以上<br>×3.6  | 5以上<br>×2       | 190~220<br>・180     | N-5°-E  | 東西棟         | SI143・158・162に切ら<br>れている             | 第176図<br>P197 | 第15次・郡山II<br>P31 |
| SB208                   | 不明              | 不明              | 不明                  | 不明      | 不明          | なし                                   | 第94図<br>P121  | 第20次・郡山II<br>P63 |
| SB214                   | 10.0×4.6        | 6×2             | 180~200・<br>225~240 | E-0°-S  | 東西棟         | SB100、SD85・98・124を<br>切っている          | 第164図<br>P186 | 第12次・郡山II<br>P15 |
| SB302                   | 3.8×2.7         | 2×1             | 170・275             | E-0°-S  | 東西棟         | SB278を切っている                          | 第75図<br>P101  | 第86次・郡山XI<br>P11 |
| SB382                   | 4.1×1.7         | 3×1             | 110~160・<br>160~170 | N-9°-E  | 不明          | なし                                   | 第75図<br>P101  | 第24次・郡山II<br>P29 |

第15表 II期官衛遺構表(1)

|        | 規模 (m)<br>桁行×梁行                           | 間数<br>桁行×梁行         | 柱間 (cm)<br>桁行×梁行                   | 主軸方向    | 特徴  | 重 複   | 本書掲載<br>載割所   | 備 考                 |
|--------|---|---------------------|------------------------------------|---------|-----|---|---------------|---------------------|
| SB 434 | 3.8以上<br>×4.65                            | 2以上<br>×2           | 172-208・<br>230-235                | E-2'-N  | 東西棟 | SD445, AD435A・Dを切っている                               | 第120図<br>P145 | 第35次・郡山Ⅳ<br>P11     |
| SB 435 | 3.85以上<br>×4.11                           | 2以上<br>×2           | 155-230・<br>200-211                | E-2'-N  | 東西棟 | SD445を切っており, SB434に<br>切られている                       | 第120図<br>P145 | 第35次・郡山Ⅳ<br>P11     |
| SB 652 | 8.6以上<br>×5.2以上                           | 4以上<br>×2以上         | A: 250-265<br>B: 237-244<br>A, B20 | N-45'-W | 南北棟 | SD637, SK643に切られている                                 | 第85図<br>P111  | 第51次・郡山Ⅴ<br>P12     |
| SB 777 | 3.95以上<br>×2.23以上                         | 2以上<br>×1以上         | 185-210<br>・223                    | N-3'-W  | 南北棟 | SI725・728を切っており,<br>SD637に切られている                    | 第85図<br>P111  | 第55次・郡山Ⅴ<br>P44     |
| SB 793 | 8.5×6.0                                   | 4×3                 | 193-237・<br>190-211                | E-2'-N  | 東西棟 | SA800・818・819, SK801・<br>807・808を切っている              | 第121図<br>P146 | 第61次・郡山Ⅵ<br>P12     |
| SB 870 | 9.4×4.4                                   | 4×2                 | 210-260・<br>180-250                | E-1'-N  | 東西棟 | 小溝状造橋を切っており,<br>SB800に切られている                        | 第164図<br>P186 | 第63次・郡山Ⅶ<br>P37     |
| SB 871 | 7.1以上<br>×4.8以上                           | 3以上<br>×2以上         | 240・240                            | E-2'-S  | 東西棟 | 小溝状造橋を切っており,<br>SB900に切られている                        | 第164図<br>P186 | 第63次・郡山Ⅶ<br>P37     |
| SB 880 | 11.3×3.6                                  | 5×2                 | 215-265・<br>145-215                | E-2'-S  | 東西棟 | SR885・1007, SD882・883を<br>切り, SB880に切られている          | 第164図<br>P186 | 第63次・郡山Ⅶ<br>P38     |
| SB 885 | 11.3×3.8                                  | 5×2                 | 200-260・<br>150-225                | E-1'-S  | 東西棟 | SD882・883を切っており,<br>SB880・880, SK877・879に切<br>られている | 第164図<br>P186 | 第63次・郡山Ⅶ<br>P38     |
| SB 895 | 5.3×<br>3.4-4.0                           | 3×2                 | 175-200・<br>170-200                | N-2'-E  | 南北棟 | SD860に切られている  | 第164図<br>P186 | 第63次・郡山Ⅶ<br>P38     |
| SB 900 | 11.4以上<br>×4.4以上                          | 5以上<br>×2以上         | 220-230<br>・230                    | E-1'-N  | 東西棟 | 小溝状造橋, SD870・871を切<br>っている                          | 第164図<br>P186 | 第63次・郡山Ⅶ<br>P38, 42 |
| SB 911 | 6.4×5.0                                   | 3×2                 | 210-215<br>・250                    | N-0'-E  | 南北棟 | なし  | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P62   |
| SB 923 | 6.0以上<br>×不明                              | 3以上<br>×不明          | 200・不明                             | N-0'-E  | 不明  | SX924に切られている  | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P62   |
| SB 950 | 6.5以上<br>×2.2以上                           | 3-4×2<br>(推定)       | 210-230<br>・220                    | E-1'-S  | 東西棟 | なし  | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P66   |
| SB 999 | 4.2以上<br>×5.1以上<br>(推定)                   | 2以上<br>×2-3<br>(推定) | 210・255-<br>170 (推定)               | E-2'-S  | 東西棟 | なし  | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P70   |
| SB1001 | 14.8<br>×5.1以上                            | 5×<br>2以上           | 280-330<br>・320前後                  | E-1'-S  | 東西棟 | SB899を切っている   | 第164図<br>P186 | 第63次・郡山Ⅶ<br>P42     |
| SB1007 | 5.9以上<br>×6.9                             | 2以上<br>×3           | 290-330・<br>220-230                | E-1'-S  | 南北棟 | SD882・883を切っており,<br>SB880, SD893に切られている             | 第164図<br>P186 | 第63次・郡山Ⅶ<br>P42     |
| SB1081 | 4.42<br>×2.97                             | 2×1                 | 218-224・<br>296-297                | E-1'-S  | 東西棟 | なし  | 第97図<br>P124  | 第74次・郡山Ⅷ<br>P38     |
| SB1114 | a: 6.8×4.5<br>b: 9.4×4.7                  | 3×2                 | 20-20-20-20                        | N-0'-E  | 南北棟 | SB1148に切られている (建て<br>替え)                            | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P73   |
|        |   | 5×2                 | 18-20-20-20                        | N-0'-E  | 南北棟 |   |               |                     |
| SB1119 | 6.5×4.7                                   | 3×2                 | 203-225・<br>221-242                | N-0'-E  | 南北棟 | SD1108に切られている                                       | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P74   |
| SB1120 | 5.75×3.6                                  | 3×2                 | 185-200・<br>171-185                | N-2'-E  | 南北棟 | なし  | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P74   |
| SB1130 | a: 6.5×4.2<br>b: 7.9密縁×4.1<br>c: 1.1×1.66 | 3×2                 | 210・210                            | N-2'-E  | 東西棟 | SK1128, P268・271・272・<br>276・278に切られている (建て<br>替え)  | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P77   |
|        |   | 3×2                 | 25-25-26-25<br>28-28-113-22        | E-3'-N  | 東西棟 |   |               |                     |
| SB1132 | a: 33-61×40-43<br>b: 6.0×4.9              | 3×2                 | 28-28-28-28                        | E-0'-S  | 東西棟 | SB1167, SK1172を切っている<br>(建て替え)                      | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P79   |
|        |   | 3×2                 | 28-21-21-20                        | E-1'-S  | 東西棟 |   |               |                     |
| SB1144 | 4.4×<br>2.0以上                             | 2×<br>1以上           | 220・200                            | N-0'-E  | 不明  | SX1102に切られている                                       | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P80   |
| SB1148 | 6.5以上<br>×4.8                             | 3以上<br>×2           | 210-225・<br>230-250                | N-2'-E  | 南北棟 | SD1115に切られ, SB1114bを<br>切っている                       | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P81   |

第16表 Ⅱ期官街遺構表(2)

|        | 規模 (m)<br>桁行×梁行       | 間数<br>桁行×梁行 | 柱間 (cm)<br>桁行・梁行    | 主軸方向    | 特徴          | 重 複  | 本書掲載<br>範囲所   | 備 考                  |
|--------|-----------------------|-------------|---------------------|---------|-------------|--|---------------|----------------------|
| SB1154 | 3.5以上<br>×不明          | 2以上<br>×不明  | 200・不明              | E-0°-S  | 不明          | SD1116・1181に切られている                                   | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P82    |
| SB1167 | 不明                    | 不明          | 不明                  | 不明      | 不明          | SB1132に切られている  | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P76同   |
| SB1385 | 4.1以上<br>×4.0以上       | 2以上<br>×2以上 | 230・230             | N-5°-W  | 不明          | SA272を切り、SA1379、<br>SD1364に切られている                    | 第146図<br>P170 | 第96次・郡山XII<br>P12    |
| SB1433 | 2.5以上<br>×4.1         | 2以上<br>×2   | 130・205             | N-3°-E  | 南北棟         | SA272を切り、SB1450、<br>SE1426に切られている                    | 第146図<br>P170 | 第100次・郡山XV<br>P32    |
| SB1450 | 2.7以上<br>×2.2以上       | 2以上<br>×1以上 | 180~190<br>・200     | E-2°-N  | 東西棟         | SB1433を切り、SE1426に切<br>られている                          | 第146図<br>P170 | 第100次・郡山XV<br>P32    |
| SB1455 | 3.5以上<br>×不明          | 1以上<br>×不明  | 245 (推定)<br>・不明     | N-6°-W  | 不明          | SD1460・1465を切っている                                    | 第111図<br>P137 | 第101次・G区             |
| SB1460 | 2.1以上×<br>3.6以上       | 1以上<br>×1以上 | 不明                  | 不明      | 不明          | SB1455に切られている  | 第85図<br>P111  | 第101次・G区             |
| SB1465 | 5.5 (推定)<br>×不明       | 2×不明        | 270・不明              | E-2°-S  | 不明          | SB1455に切られている  | 第111図<br>P137 | 第101次・G区             |
| SB1485 | 9.6×5.7               | 3×2         | 228~288・<br>266~288 | N-10°-W | 南北棟         | SB1490a・b、SB1500、<br>SD1512・1521を切っている               | 第85図<br>P111  | 第102次・郡山XV<br>P12    |
| SB1565 | 3.2以上<br>×1.2以上       | 2以上<br>×1以上 | 不明                  | E-3°-N  | 不明          | SB1560・1605を切り、<br>SB1570に切られている                     | 第85図<br>P111  | 第107次・郡山XVI<br>P12   |
| SB1575 | 1.6×不明                | 1×不明        | 160・不明              | E-14°-N | 不明          | SB1585、SD1569に切られて<br>いる                             | 第85図<br>P111  | 第107次・郡山XVI<br>P12   |
| SB1580 | 不明                    | 不明          | 不明                  | 不明      | 不明          | SB1560に切られている  | 第85図<br>P111  | 第107次・郡山XVI<br>P12   |
| SB1640 | 2.3×不明                | 1×不明        | 230・不明              | E-7°-N  | 不明          | 小ピットに切られている  | 第85図<br>P111  | 第107次・郡山XVI<br>P15   |
| SB1650 | 16.62×4.92            | 6×2         | 253~293・<br>220~272 | N-3°-E  | 南北棟         | SD1631を切り、SD1629に切<br>られている                          | 第111図<br>P137 | 第110次・郡山XVIII<br>P6  |
| SB1690 | 2.6以上<br>×3.4         | 1以上<br>×2   | 不明・<br>225~285      | E-2°-S  | 南北棟<br>(推定) | SA1685・1700、SB1685・<br>1755・1760を切り、SD758に<br>切られている | 第94図<br>P121  | 第115次・郡山XVIII<br>P10 |
| SB1691 | 4.28×<br>2.3以上        | 2×<br>2以上   | 226、202・<br>218、230 | N-4°-E  | 不明          | なし   | —             | 第112次・郡山112次<br>P14  |
| SB1723 | 5.37×4.05             | 3×2         | 164~196・<br>197~205 | N-5°-E  | 南北棟         | SD1692・1693を切り、<br>SD1716に切られている                     | —             | 第112次・郡山112次<br>P14  |
| SB1724 | 4.83×<br>1.85以上       | 3×<br>2以上   | 156~162・<br>180~185 | N-6°-E  | 不明          | 小ピット、SK1714に切られ<br>ている                               | —             | 第112次・郡山112次<br>P14  |
| SB1730 | 不明                    | 不明          | 不明                  | 不明      | 不明          | なし   | 第97図<br>P124  | 第101次・N区             |
| SB1733 | 11.5×5.65             | 2×1         | 550~600<br>・565     | N-2°-E  | 東西棟         | なし   | —             | 第112次・郡山112次<br>P14  |
| SB1735 | 10.9以上<br>×不明         | 5×不明        | 203~232<br>・不明      | E-2°-S  | 東西棟<br>(推定) | SK1753を切っている   | 第97図<br>P124  | 第101次・P区             |
| SB1780 | 3.3以上<br>×不明          | 2以上<br>×不明  | 180、150<br>・不明      | E-1°-N  | 不明          | SD1783、SK1786を切ってい<br>る                              | 第146図<br>P170 | 第123次・郡山XX<br>P46    |
| SB1790 | 8.94×2.3              | 3×1         | 260~320<br>・230     | E-0°-S  | 東西棟         | SA1802・1819、SK1823を切<br>っている                         | 第96図<br>P123  | 第121次・郡山XX<br>P30    |
| SB2045 | 6.9 (推定)<br>×4.2 (推定) | 4×2         | 150~190・<br>190~230 | N-1°-W  | 東西棟         | SA2005、SX2093を切ってい<br>る                              | 第137図<br>P161 | 第147次・郡山23<br>P30    |

第17表 II期官衛遺構表(3)

|        | 検出長 (m)               | 柱間 (cm)       |                    | 方向               | 特徴   | 重 複  | 本音階<br>載箇所    | 備 考                         |
|--------|-----------------------|---------------|--------------------|------------------|------|--|---------------|-----------------------------|
|        |                       | 柱間<br>材径 (cm) | 材径 (cm)            |                  |      |  |               |                             |
| SA 65  | 7次 3.0以上<br>16次 1.5以上 | 70~80         | 25                 | N-3°-E<br>N-4°-W | 材木列  | SD164, SK173, SI174を切り、SD175, SK211に切られている         | 第110図<br>P136 | 第7次・郡山I・P22<br>第19次・郡山E・P51 |
| SA 213 | 1.5以上                 | 1以上           | 150                | N-0°-E           | 一本柱別 | なし   | 第176図<br>P197 | 第15次・郡山II<br>P31            |
| SA 730 | 8.34                  | 4以上           | 195~225            | N-5°-W           | 一本柱別 | SI277, SB781を切っており、SD710, SK719・731・738に切られている     | 第85図<br>P111  | 第53次・郡山VI<br>P44            |
| SA 787 | 不明                    | 70            | 不明                 | 不明               | 材木列  | なし   | P154          | 第39次・郡山VI<br>P76            |
| SA 794 | 11.7以上                | 5以上           | 227~244            | E-1°-N           | 一本柱別 | SA815, SI805, SD812・817を切っている<br>(SA386と関連・総長694m) | 第121図<br>P146 | 第61次・郡山VII<br>P10           |
| SA 830 | 東西9.6以上<br>南北1.1以上    | 50~80         | 10~25              | E-1°-S           | 材木列  | SI835を切っており、SK826ビット1基に切られている                      | 第164図<br>P186 | 第62次・郡山VII<br>P26           |
| SA1025 | 5.8以上                 | 2以上           | 235                | W-0°-E           | 一本柱別 | (SA386・794と関連)                                     | 第121図<br>P146 | 第68次・郡山VII<br>P8            |
| SA1026 | 10.0以上                | 35~70         | 8~18               | N-0°-S           | 材木列  | なし   | 第117図<br>P142 | 第69次・郡山VII<br>P19           |
| SA1055 | 8.6以上                 | 7以上           | 115~130            | N-4°-E           | 一本柱別 | SI1060に切られている                                      | 第164図<br>P186 | 第70次・郡山VII<br>P27           |
| SA1069 | 東西16.4<br>南北33.0      | 6以上<br>12以上   | 264~274<br>264~280 | E-1°-S<br>N-1°-E | 一本柱別 | SB1100を切り、SB1070に切られている                            | 第92図<br>P119  | 第77次・郡山IX<br>P14            |
| SA1072 | 5.5以上                 | 3以上           | 175~190            | E-2°-S           | 一本柱別 | なし   | 第92図<br>P119  | 第72次・郡山VII<br>P53           |
| SA1147 | 東西16.0以上<br>南北18.0以上  | 6<br>7        | 250~295<br>240~266 | E-2°-S<br>N-1°-E | 一本柱別 | P286に切られている  | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P83           |
| SA1157 | 東西4.0以上<br>南北3.8以上    | 2以上<br>不明     | 170~240<br>・380    | E-5°-N           | 不明   | SX304に切られている                                       | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P82           |
| SA1168 | 1.3                   | 1             | 130                | E-0°-S           | 一本柱別 | なし   | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P83           |
| SA1283 | 12.7                  | 30~65         | 不明                 | N-80°-E          | 材木列  | SB1277に切られている                                      | 第136図<br>P160 | 第85次・郡山85次<br>P69           |
| SA1378 | 21.0                  | 30~70         | 5~15               | E-9°-N           | 材木列  | SA272・1379を切り、SD1684に切られている                        | 第146図<br>P170 | 第96次・郡山XIII<br>P12          |
| SA1379 | 20.0                  | 20~50         | 5~15               | E-10°-N          | 材木列  | SA272, SB1385を切り、SA1378・SD1364に切られている              | 第146図<br>P170 | 第96次・郡山XIII<br>P12          |
| SA1435 | 1.2以上                 | 40~60         | 10~15              | N-0°-E           | 材木列  | SA272を切っている (鑑定)                                   | 第146図<br>P170 | 第100次・郡山XIV<br>P31          |
| SA1440 | 3.5以上                 | 25~40         | 10~15              | N-2°-W           | 材木列  | SA272を切っている  | 第146図<br>P170 | 第100次・郡山XIV<br>P31          |
| SA1445 | 14.0                  | 30~50         | 10~12              | N-0°-E           | 材木列  | SA272を切っている  | 第146図<br>P170 | 第100次・郡山XIV<br>P31          |
| SA1530 | 4.0                   | 240           | 9~18               | N-6°-W           | 材木列  | SD1552, SK1514を切り、SD1516に切られている                    | 第117図<br>P142 | 第105次・郡山XV<br>P40           |
| SA1590 | 東西2.68<br>南北6.4以上     | 1<br>3        | 268<br>208         | W-4°-S<br>N-4°-W | 一本柱別 | SB1555・1560・1570を切り、SD1569に切られている                  | 第85図<br>P111  | 第107次・郡山XVI<br>P13          |
| SA1660 | 19.8以上                | 36~62         | 7~20               | N-2°-E           | 材木列  | SA1665, SI1664を切り、SD1629・1647に切られている               | 第111図<br>P137 | 第110次・郡山XVII<br>P5          |
| SA1770 | 7.5                   | 120<br>~160   | 18~28              | N-1°-W           | 材木列  | SX1781を切り、SK1774・1766, SE1767に切られている               | 第116図<br>P141 | 第117次・郡山XIX<br>P5           |
| SA1785 | 1.5以上                 | 15~22         | 10~19              | N-0°-E           | 材木列  | SD1796に切られている                                      | 第184図<br>P205 | 第120次・郡山XX<br>P21           |

第18表 II期官衙遺構表(4)

|        | 検出長 (m)        | -経路 種類   |                 | 柱間 (cm)          | 方向   | 特徴            | 重 複           | 本書掲載箇所            | 備 考 |
|--------|----------------|----------|-----------------|------------------|------|---------------|---------------|-------------------|-----|
|        |                | 8号線沿21号線 | 材痕跡(cm)         |                  |      |               |               |                   |     |
| SA1845 | 東西8.3<br>南北2.2 | 3<br>1   | 220, 300<br>220 | E-2°-S<br>N-2°-E | 一本柱列 | なし            | 第183図<br>P204 | 第128次・郡山XX<br>P18 |     |
| SA1945 | 3.8以上          | 2以上      | 150, 210        | N-1°-E           | 一本柱列 | SD1909に切られている | 第94図<br>P121  | 第140次・郡山22<br>P38 |     |
| SA1960 | 3.5以上          | 2以上      | 180             | E-1°-S           | 一本柱列 | SI1910に切られている | 第94図<br>P121  | 第140次・郡山22<br>P40 |     |
| SA2020 | 3.0以上          | 1以上      | 不明              | N-0°-E           | 一本柱列 | なし            | 第137図<br>P161 | 第138次・郡山22<br>P23 |     |

第19表 II期官衛遺構表(5)

|        | 検出長 (m)          | 上幅 (cm)     | 下幅 (cm)     | 深さ (cm)    | 方向                   | 出土遺物   | 重 複  | 本書掲載箇所        | 備 考                |
|--------|------------------|-------------|-------------|------------|----------------------|--|--|---------------|--------------------|
| SD 52  | 7.3              | 100         | 72          | 30~35      | E-4°-N               | 土師器・須恵器・瓦片   | SI55を切り、SD33に切られる  | 第107図<br>P133 | 第7次・郡山I<br>P22     |
| SD 95  | 10.7             | 100程        | 80程         | 15         | E-2°-S               | 平瓦、丸瓦、軒丸瓦、端瓦   | SD98, SK87を切り、<br>SD214に切られている                                   | 第164図<br>P186 | 第12次・郡山II<br>P15   |
| SD 131 | 10.0             | 120<br>~240 | 30<br>~100  | 30<br>~100 | N-0°-E               | なし   | なし   | 第176図<br>P187 | 第15次・郡山II<br>P31   |
| SD 132 | 3.0以上            | 600<br>以上   | 570<br>以上   | 60         | N-3°-E               | C169蓋  | SI135を切っている  | 第116図<br>P136 | 第16次・郡山II<br>P51   |
| SD 142 | 10.0             | 160<br>~260 | 45~95       | 43~65      | N-0°-E               | 軒丸瓦、丸瓦片  | なし   | 第176図<br>P187 | 第15次・郡山II<br>P32   |
| SD 224 | 東西12以上<br>南北7以上  | 40~60       | 10~35       | 15         | E-0°-S<br>N-1°-W     | なし   | SR236, SK282を切っている   | 第75図<br>P101  | 第15次・郡山II<br>P33   |
| SD 273 | 21.6<br>以上       | 50~70       | 40~60       | 25         | N-3°-E               | 土師器片   | SD275, SA276・329・356<br>を切っておりSE248・249・<br>266・271に切られている       | 第73図<br>P101  | 第24次・郡山II<br>P25   |
| SD 275 | 25.0<br>以上       | 40~50       | 20~40       | 0~10       | 東西E-6°-S<br>南北N-3°-E | 土師器・須恵器葉片  | SD279, SA276・277・<br>329・356を切っており、<br>SD273に切られている              | 第73図<br>P101  | 第24次・郡山II<br>P25   |
| SD 798 | 11.9             | 44~72       | 23~44       | 8~16       | E-0°-W               | C602F、E-271F、土師器<br>鉢・甕片、須恵器鉢・<br>甕片、鉄釘、鉄鏝               | SI806を切っており、<br>SK796・797に切られている<br>(SD385と関連・総長685)             | 第112図<br>P146 | 第61次・郡山III<br>P12  |
| SD 984 | 154<br>以上        | 360         | 100<br>~170 | 80<br>~120 | E-0°-S               | F3上層、F4瓦片、須恵器、<br>11・12・15小瓶蓋、B-38F、B-41<br>土師器片、甕片、須恵器片 | SI992を切り、SD1164、<br>P91~97に切られている                                | 第140図<br>P164 | 第65次・郡山65次<br>P162 |
| SD1067 | 4.4以上            | 15~33       | 8~22        | 0~12       | N-4°-E               | なし   | なし   | 第164図<br>P186 | 第70次・郡山III<br>P30  |
| SD1087 | 14.4             | 53~60       | 35~43       | 13~15      | E-4°-S               | 土師器片・須恵器片  | SA1069, SD1100,<br>SK1099を切っている                                  | 第92図<br>P119  | 第77次・郡山IV<br>P16   |
| SD1110 | 東西12以上<br>南北23以上 | 9~68        | 0~50        | 5~12       | E-0°-S<br>N-0°-E     | 土師器鉢・甕片、甕片、<br>須恵器蓋・甕片、E-59甕片                            | 725・23・25・27・30・<br>33・34・35(枚)・P17・18・<br>19・14・21・SD802に切られている | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P169 |
| SD1180 | 24.8             | 15~65       | 6~50        | 3~35       | E-2°-S               | C120蓋、土師器鉢・甕片、<br>須恵器鉢・甕片                                | SD1176・1179を切り、<br>SD345・1164・1186・1187、<br>P1に切られている            | 第140図<br>P164 | 第65次・郡山65次<br>P177 |
| SD1188 | 4.72             | 26~55       | 10~28       | 3.6~14     | N-3°-E               | なし   | なし   | 第140図<br>P164 | 第65次・郡山65次<br>P178 |
| SD1190 | 東西22<br>南北5.3以上  | 30~70       | 17~47       | 14~33      | E-0°-S<br>N-1°-E     | 土師器片   | PI071に切られている   | 第140図<br>P178 | 第65次・郡山65次<br>P178 |
| SD1291 | 7.5以上            | 30~50       | 12~42       | 10~14      | N-0°-E               | なし   | SI294を切っている  | 第73図<br>P101  | 第86次・郡山II<br>P16   |
| SD1308 | 5.0以上            | 55<br>~154  | 57<br>~130  | 1~12       | E-0°-S               | なし   | なし   | 第140図<br>P164 | 第65次・郡山65次<br>P179 |

第20表 II期官衛遺構表(6)

|        | 検出長<br>(m) | 上幅<br>(cm)  | 下幅<br>(cm)  | 深さ<br>(cm) | 方向                      | 出土遺物  | 取 扱  | 水溝所<br>位置     | 備 考                  |
|--------|------------|-------------|-------------|------------|-------------------------|---|--|---------------|----------------------|
| SD1319 | 2.6        | 30~42       | 16~18       | 5~13       | N-1'-E                  | なし  | 板石に切られている  | 第140段<br>P164 | 第65次・郡山65次<br>P178   |
| SD1322 | 37.6<br>以上 | 98<br>~146  | 80<br>~132  | 2~9        | E-1'-N                  | 土師器ハ、奥片、須恵器<br>高台付杯、葉片襷形器   | 全ての小規模なビッドを<br>切り、SK1325・1326に切<br>られている                         | 第140段<br>P164 | 第65次・郡山65次<br>P180   |
| SD1333 | 6.6        | 15~50       | 10~40       | 0.5~4      | N-12'-E                 | なし  | なし   | 第140段<br>P164 | 第65次・郡山65次<br>P181   |
| SD1336 | 23.0<br>以上 | 32~52       | 26~46       | 3~13       | E-2'-S                  | 須恵器葉片   | P273・280・407・418~421を<br>切り、SD1327・1329・1330、<br>P281・279に切られている | 第140段<br>P164 | 第65次・郡山65次<br>P182   |
| SD1364 | 21.0<br>以上 | 90<br>~170  | 10~70       | 15~50      | E-4'-N                  | C476葉、G-64、P-25七輪、<br>土師器杯・葉片、須恵器<br>葉・葉片                         | SD1372、SA272・1380、<br>SB1385を切り、SE1371に<br>切られている                | 第146段<br>P170 | 第96次・郡山XX<br>P16     |
| SD1448 | 147<br>以上  | 22<br>~123  | 10~52       | 48         | E-12'-S                 | あり(整理作業中)   | SD710を切っている  | 第111段<br>P137 | 第101次・C区             |
| SD1628 | 13.0       | 58~90       | 28~54       | 10~59      | E-5'-N                  | E387杯、葉片  | SB377、SD336・532を切<br>っている  | 第111段<br>P137 | 第110次・郡山XX<br>P12    |
| SD1673 | 4.9        | 38~66       | 9~29        | 12~56      | N-1'-W                  | 土師器杯片・葉片、須生<br>土師片  | SI336・552を切っている  | 第111段<br>P137 | 第110次・郡山XX<br>P13    |
| SD1825 | 4.95       | 270<br>~300 | 60<br>~130  | 100        | N-4'-W                  | 土師器片、須恵器片   | SD1842に切られている  | 第107段<br>P133 | 第129次・郡山XX<br>P35    |
| SD1860 | 8.5        | 500         | 120<br>~160 | 170        | W-E                     | C52杯、D-1葉、E-18~<br>20・24・25杯、E-21赤輪、<br>F-1、N-3餅状                 | SD1859を切っている   | 第147段<br>P171 | 第124次・郡山124次<br>F51  |
| SD2086 | 23.0       | 42~76       | 25~50       | 80         | 北部 N-0'-E<br>南部 N-3'-W  | B-36葉、平瓦小片、筒成器の破片、<br>B-309杯、B-266杯、B-297杯、B-<br>298破片、土師器・須恵器の破片 | SA1283・2005b、SB2050、<br>SK2113、SX2093・2122を<br>切っている             | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P12    |
| SD2087 | 18.0       | 10~40       | 3~25        | 7~13       | 北部 N-2'-E<br>南部 N-2'-W  | 土師器破片   | SA1283、SX2030、<br>SX2093・2122を切っている                              | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P12    |
| SD2088 | 17.7       | 10~30       | 5~18        | 5~6        | 北部 N-2'-E<br>南部 N-2'-W  | N-123破片、土師器・須恵<br>器破片   | SA1283、SR2050を切っ<br>ている  | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山21<br>P2、14  |
| SD2089 | 9.3        | 18~32       | 8~24        | 5          | N-1'-W                  | 土師器・須生土師の破片   | SA1283、SR2050を切っ<br>ている  | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山21<br>P14    |
| SD2101 | 9.2        | 14~34       | 10~28       | 5~7        | E-5'-N                  | 土師器破片   | SA1855を切る  | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P15    |
| SD2102 | 9.25       | 15~32       | 10~22       | 10~12      | E-3'-N                  | 土師器・須恵器破片   | SA1855・2005bを切り<br>SR2045に切られている                                 | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P15    |
| SD2103 | 9.7        | 20~35       | 10~28       | 5          | E-9'-N                  | 土師器破片   | SA1855・2005b、SX2093<br>を切りSR2045に切られて<br>いる                      | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P15    |
| SD2104 | 9.6        | 28~50       | 14~30       | 15         | E-9'-N                  | 土師器・須恵器破片   | SA2003bを切っている  | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P15    |
| SD2106 | 10.1       | 26~40       | 16~22       | 7~15       | 東部 E-2'-N<br>西部 E-11'-N | 土師器・須恵器破片   | SA2003b、SX2093を切っ<br>ている   | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P15    |
| SD2107 | 3.0        | 18~34       | 12~30       | 12         | N-0'-E                  | 土師器・須恵器破片   | SX2093を切っている   | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P15    |
| SD2108 | 4.8        | 10~28       | 6~8         | 6          | N-3'-W                  | なし  | SX2093を切っている   | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P15    |
| SD2109 | 3.9        | 16~30       | 6~16        | 5          | N-2'-E                  | なし  | SX2093を切っている   | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P15    |
| SD2114 | 5.8        | 10~50       | 4~20        | 5          | N-2'-W                  | 土師器杯・高杯・破片  | SX2093を切っている   | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山21<br>P15、16 |
| SD2116 | 10.1       | 24~36       | 20~28       | 15         | E-8'-N                  | 土師器・須恵器破片   | SA2005b、SX2093を切っ<br>ている   | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山21<br>P16    |
| SD2117 | 8.9        | 28~60       | 15~45       | 30         | 南部 E-6'-N<br>西部 N-1'-W  | 須恵器・土師器破片   | SX2093を切っている   | 第137段<br>P161 | 第147次・郡山24<br>P16    |

第21表 II期官衙遺構表(7)

|               | 規模 (m)<br>長辺×短辺        | カマド        | 土柱穴 | 周溝 | 方向<br>(長辺あるいは<br>カマド) | 出土遺物          | 重 複   | 本書掲<br>載箇所    | 備 考                 |
|---------------|------------------------|------------|-----|----|-----------------------|---------------|---|---------------|---------------------|
| 1号住居跡<br>扉跡跡型 | 6.4×6.4                | あり         | 4   | あり | N-ア-W                 | ○             | 4号溝に切られている                                      | 第116図<br>P141 | 年報1<br>P12          |
| SI 1          | 8×4.4                  | 不明         | 2   | あり | N-0°-E                | ○             | SK8・9に切られている                                    | 第120図<br>P145 | 第1次・郡山Ⅰ<br>P10      |
| SI 162        | 6.0×不明                 | 不明         | 2   | あり | E-11°-S               | ○             | SI43, SD139に切られている                              | 第176図<br>P197 | 第15次・郡山Ⅱ<br>P28     |
| SI 171        | 5.6×5.4                | あり<br>(推定) | 4   | あり | 不明                    | ○             | SI143に切られている                                    | 第176図<br>P197 | 第15次・郡山Ⅱ<br>P28     |
| SI 288        | 6.0以上<br>×2.6以上        | 不明         | なし  | 不明 | E-2°-N                | あり            | SI289・290, SB287を切っている                          | 第75図<br>P101  | 第24次・郡山Ⅲ<br>P17     |
| SI 304        | 3.8以上<br>×2.8以上        | 不明         | 不明  | あり | E-5°-S                | ○             | SI305, SK306・309を切っている                          | 第120図<br>P145 | 第30次・郡山Ⅲ<br>P61     |
| SI 903        | 2.9×2.35               | あり         | なし  | あり | N-ア-E                 | ○             | SI902, 904を切っている                                | 第141図<br>P165 | 第65次・郡山65次<br>P108  |
| SI 910        | 4.1×<br>3.9以上          | あり         | なし  | なし | N-16°-W               | ○             | SI925に切られている                                    | 第141図<br>P165 | 第65次・郡山65次<br>P112  |
| SI 946        | 6.4×<br>6.2-6.3        | 新・旧<br>あり  | 4   | あり | N-5°-E                | あり            | SD345に切られている                                    | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P118  |
| SI 964        | 3.8×<br>1.8以上          | あり<br>(推定) | なし  | なし | E-12°-S               | ○             | SI965を切り、SX934, SI934, SK933に切られている             | 第150図<br>P174 | 第65次・郡山65次<br>P132  |
| SI 1028       | 4.7×4.7                | 不明         | 4   | あり | N-2°-W                | あり            | SD1041を切っている                                    | 第163図<br>P185 | 第70次・郡山Ⅶ<br>P28     |
| SI 1033       | 4.4×4.35               | あり<br>(推定) | 不明  | あり | N-0°-S                | ○             | SD1042, SK1046・1047・1050を切っている                  | 第163図<br>P185 | 第70次・郡山Ⅶ<br>P28, 29 |
| SI 1034       | 7.0×6.6                | あり<br>(推定) | 4   | あり | N-2°-E                | ○             | SD1041, SK1063・1064を切っており、SE1032, SK1039に切られている | 第164図<br>P186 | 第70次・郡山Ⅶ<br>P29     |
| SI 1036       | 4.2以上<br>×2.5以上        | 不明         | 不明  | なし | E-10°-N               | あり            | なし  | —             | 第70次・郡山Ⅶ<br>P29     |
| SI 1060       | 4.6以上<br>×1.5以上        | 不明         | 不明  | 不明 | W-0°-E                | なし            | SA1055を切っている                                    | 第164図<br>P186 | 第70次・郡山Ⅶ<br>P30     |
| SI 1200       | 4.0×1.8                | 不明         | なし  | なし | N-ア-W<br>(推定)         | ○             | SD345・1164に切られている                               | 第140図<br>P164 | 第65次・郡山65次<br>P148  |
| SI 1446       | 1.68以上<br>×不明          | あり         | なし  | 不明 | N-5°-E                | あり<br>(遺物作業中) | SX1447に切られている                                   | 第141図<br>P165 | 第101次・B区            |
| SI 1517       | 4.1以上<br>×1.7以上        | 不明         | 不明  | 不明 | E-ア-S                 | ○             | SD1553を切り、SK1554に切られている                         | 第117図<br>P142 | 第105次・郡山ⅩV<br>P40   |
| SI 1622       | 3.4×<br>2.8以上          | 不明         | なし  | あり | E-2°-N                | あり<br>(遺物作業中) | なし  | 第97図<br>P124  | 第101次・L, M区         |
| SI 1623       | 不明                     | 不明         | 不明  | 不明 | N-15°-W               | ○             | なし  | 第183図<br>P204 | 第109次・郡山ⅩⅢ<br>P38   |
| SI 1692       | 6.1×6.0                | 不明         | 4   | なし | N-2°-E                | ○             | SD1716, SB1723に切られ、SI1693を切っている                 | —             | 第112次・郡山112次<br>P10 |
| SI 1696       | 4.2×4.0                | あり         | 4   | あり | N-13°-E               | ○             | SK1727・1744, SD1702・1704, ビットに切られている            | —             | 第112次・郡山112次<br>P20 |
| SI 1697       | 新 7.5×6.1<br>旧 6.1×5.1 | 不明         | 4   | あり | N-0°-E                | ○             | SD1704・1713, ビットに切られ、SK1071を切る                  | —             | 第112次・郡山112次<br>P22 |
| SI 1729       | 3.9×3.4                | あり         | なし  | あり | N-ア-W                 | あり            | SI1741・1743, SK1708を切る                          | —             | 第112次・郡山112次<br>P25 |
| SI 1856       | 4.0×<br>3.0-3.8        | あり         | 不明  | 不明 | N-20°-E               | ○             | なし  | 第183図<br>P204 | 第128次・郡山ⅩⅩ<br>P17   |

出土遺物の項で「○」は、実測図作成が可能な遺物が出土した場合、「あり」は、出土したが小破片で実測図作成をしなかった場合である。

第22表 Ⅱ期官街遺構表(6)

(竪穴住居跡2)

|         | 規模 (m)<br>長辺×短辺    | カマド      | 主柱穴 | 周溝 | 方向<br>(長辺あるいは<br>カマド) | 出土遺物 | 重 複                         | 本書掲載<br>載箇所   | 備 考                  |
|---------|--------------------|----------|-----|----|-----------------------|------|-----------------------------|---------------|----------------------|
| SI 1873 | 5.0×不明             | 不明       | 2   | あり | N-ア-E                 | ○    | SI1879に切られている               | 第147図<br>P171 | 第124次・郡山124次<br>P29  |
| SI 1875 | 不明                 | 不明<br>あり | なし  | あり | N-0-E                 | ○    | SD1903に切られ、P181<br>を切っている   | 第147図<br>P171 | 第124次・郡山124次<br>P31  |
| SI 1879 | 5.2×不明             | 不明       | 不明  | あり | N-1-E                 | ○    | SI1873を切っている                | 第147図<br>P171 | 第124次・郡山124次<br>P38  |
| SI 1940 | 4.7×<br>2.4以上      | 不明       | なし  | なし | E-6-S                 | ○    | SA1960を切っている                | 第94図<br>P121  | 第140次・郡山22<br>P40    |
| SI 1965 | 5.0~5.25<br>×1.0以上 | 不明       | 不明  | なし | E-3-S                 | あり   | SI1970・1980に切られて<br>いる      | 第94図<br>P121  | 第142次・郡山22<br>P43    |
| SI 1970 | 4.5×<br>2.65以上     | 不明       | 不明  | 不明 | N-10-E                | あり   | SI1965を切り、SI1980<br>に切られている | 第94図<br>P121  | 第142次・郡山22<br>P43、45 |
| SI 1975 | 3.4×3.2            | あり       | なし  | あり | N-3-E                 | ○    | SI1980に切られている               | 第94図<br>P121  | 第142次・郡山22<br>P45    |
| SI 1980 | 4.5以上<br>×2.3以上    | あり       | 不明  | あり | E-ア-S                 | ○    | SI1975を切っている                | 第94図<br>P121  | 第142次・郡山22<br>P47    |

第23表 II期官衙遺構表(9)

(性格不明な遺構)

|        | 規模 (m)<br>長軸×短軸 | 深さ (cm) | 平面形   | 出土遺物 | 重 複         | 本書掲載<br>載箇所   | 備 考              |
|--------|-----------------|---------|-------|------|-------------|---------------|------------------|
| SX 156 | 直径4.0~5.0       | 30~40   | 不整形円形 | ○    | SI160を切っている | 第176図<br>P197 | 第13次・郡山II<br>P35 |

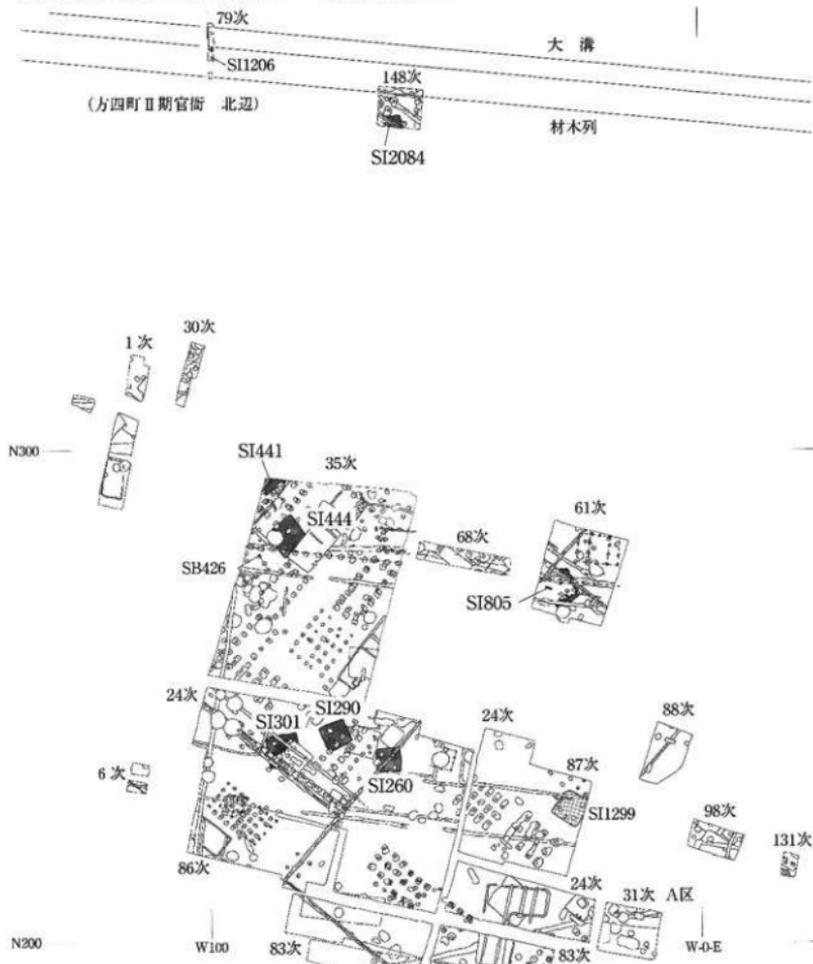
出土遺物の項で「○」は、実測図作成が可能な遺物が出土した場合、「あり」は、出土したが、小破片で実測図の作成をしなかった場合である。

第24表 II期官衙遺構表(10)

## 第4節 その他の遺構

### 1. I期官衙以前の竪穴住居跡

遺跡北部にI期官衙の遺構群に切れ、確実に官衙より遡る竪穴住居跡が存在する。遺跡全体では7軒ほどであるが、遺物が出土し遺構の規模や細部が明らかなのは以下の4軒である。これらの遺構の多くからは、特徴的な土師器の坏が出土している。口縁部が内側に傾き、外面に稜線が形成され、内面が黒色処理されないものである。これらの土器については「第6章考察 第1節出土遺物 1. 土師器」の中で検討を加えることにする。ここではそれらの遺物を出した竪穴住居跡について詳細に掲載する。



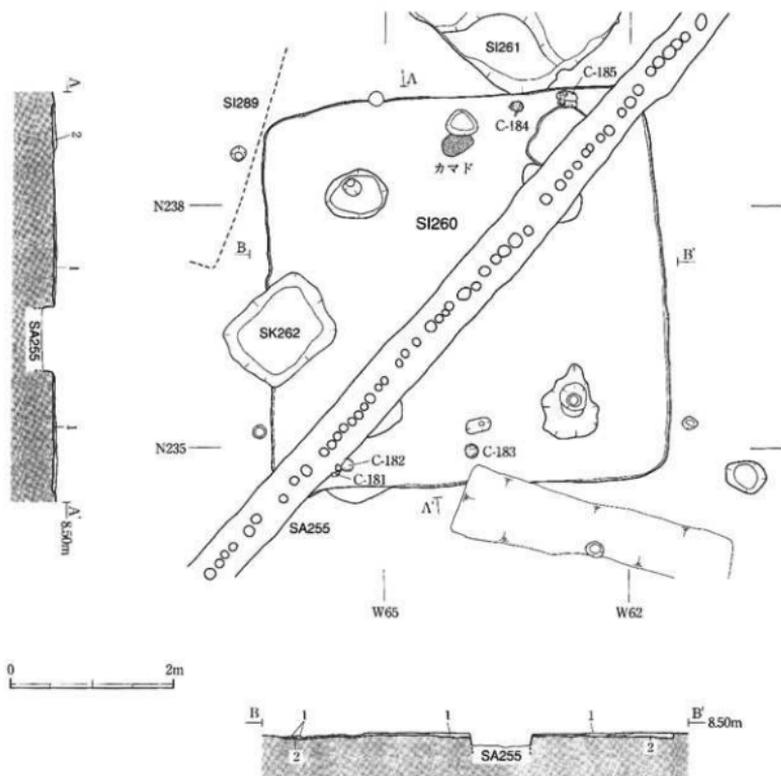
第190図 I期官衙以前の竪穴式住居跡

SI260竪穴住居跡（第24次・第35、190、191図）

東西4.8m、南北4.8mの正方形、深さ2～5cmで、壁がわずかに残存している。方向はN-10°-Wで、床面は貼床で、カマドは北壁際に焼けしまった底面のみ残り、ソデは削平されている。主柱穴は4つあり、壁から100～110cm離れ、柱間寸法は265～270cmである。柱穴は直径60～80cmの不整形円形で、深さ60～75cm、柱痕跡は直径16～18cmである。堆積土は暗褐色シルトで、地山土がブロック状に混入している。

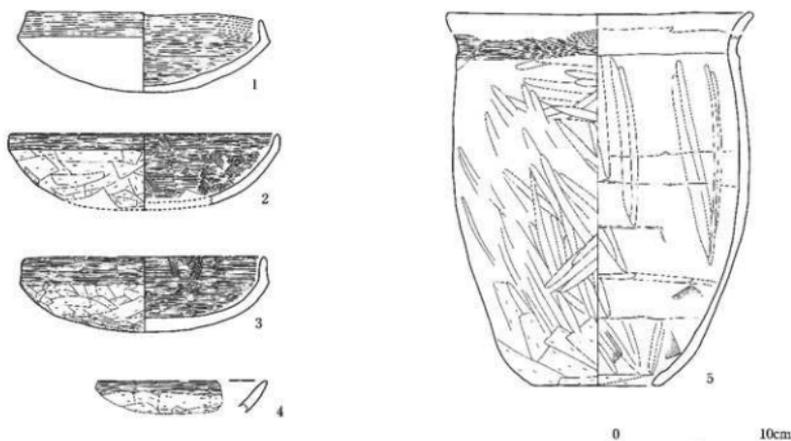
床面の南西隅付近に土師器C-181・182杯、南壁際に土師器C-183杯、カマド右側の北壁際に土師器C-184杯、C-185瓶が出土している。

出土した遺物の中で土師器C-183杯(第192図1)は、口縁部が内側に傾きながら短く立ち上がり、体部と口縁部の境に顕著な稜が形成されている。外面は口縁部付近がヨコナデ、体部から底部がヘラケズリ、内面はヨコナデ調整されている。内外面に黒色の付着物が認められ、外面のヘラケズリ痕跡を覆い、内面のヨコナデの深部まで濃く



| 遺構名   | 層位 | 土色                     | 土位  | 備考  |
|-------|----|------------------------|-----|---|
| SI260 | 1  | 10YR3/4 暗褐色            | シルト | にがい黄褐色土、明黄褐色土、暗褐色土がまだらに混入し、暗褐色土を小ブロック状に含む |
|       | 2  | 10YR4/4 褐色・10YR3/4 暗褐色 | シルト | 暗褐色土を小塊点状に、明褐色土を大塊点状に含む                   |

第191図 SI260 平・断面図



| 図版番号 | 登録番号  | 種類  | 形状 | 出土地点  | 注量 (cm)          | 外面調査                   | 内面調査               | 備考      | 調査回数 | 写真回数 |
|------|-------|-----|----|-------|------------------|------------------------|--------------------|---------|------|------|
| 1    | C-181 | 土師器 | 杯  | SI260 | 床面 器高19 口徑14.5   | 口縁部ヨコナデ、腹部・底部ヘラケズリ     | ヨコナデ               | 遺址上、C21 | 24   | 669  |
| 2    | C-181 | 土師器 | 杯  | SI260 | 床面 残存高4.8 口徑16.0 | 口縁部ヨコナデ、腹部・底部ヘラケズリ     | ヨコナデ+ミガキ           | C22     | 24   | 669  |
| 3    | C-182 | 土師器 | 杯  | SI260 | 床面 器高4.6 口徑15.0  | 口縁部ヨコナデ、腹部・底部ヘラケズリ     | 口縁部ヨコナデ、腹部・底部ヘラケズリ | C22     | 24   | 669  |
| 4    | C-184 | 土師器 | 杯  | SI260 | 床面 残存高2.0 口徑17.6 | 口縁部ヨコナデ、腹部ヘラケズリ        | ヨコナデ               | 遺址上、C22 |      |      |
| 5    | C-185 | 土師器 | 瓶  | SI260 | 床面 残存高22.1 底径7.8 | 口縁部ヨコナデ、肩部+ズリ+ミガキ+底部付着 | 底部ミガキ+ヘラケズリ+下部付着   |         | 24   | 669  |

第192図 SI260 出土遺物

入り込んでいる。塗布されたものと考えられる(註22)。

土師器C-181杯(第192図2)は口縁部がきわめて短く立ち上がり、外面はヘラケズリ、内面はヨコナデ後ヘラミガキが施されている。土師器C-182杯(第192図3)は口縁部が短く立ち上がり、内面はヨコナデ調整されている。内外面の一部に黒色の塗布された痕跡も認められる。土師器C-184杯(第192図4)は、皿あるいは蓋状で浅く、外面がヘラケズリ後にヘラミガキ、内外面に黒色の塗布された痕跡が認められる。土師器C-185瓶(第192図5)は頸部に拵れのある単孔式で、外部外面はヘラケズリ後ヘラミガキが施されたものである。外面の底部付近に赤彩された痕跡がある。

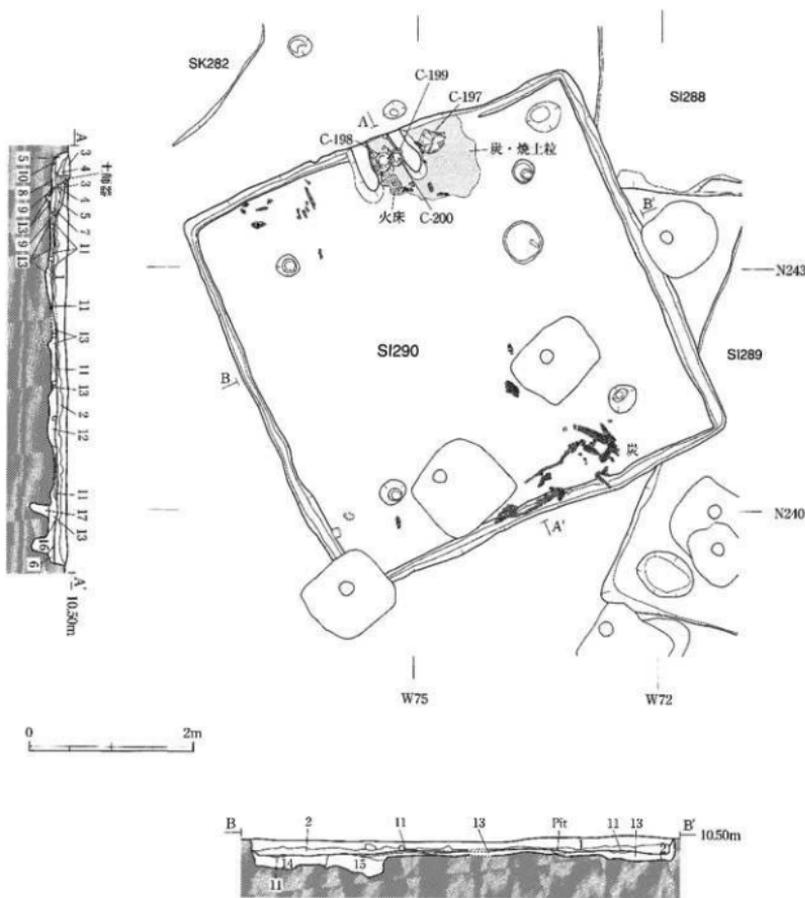
SA255材木列、SI261竪穴住居跡、SK262土坑に切られている。

#### SI290竪穴住居跡(第24次・第35、190、193図)

東西5.2m、南北5.1mのほぼ正方形で、深さは10~20cm、壁はほぼ直立し、幅10~20cm、深さ5~10cmの周溝が四周する。西壁の方向はN-17°-Wで、床面は貼床、カマドは北壁中央にある。カマドは幅100cm、奥行70cmで、両ソダが良好に残存し、カマド内の焼面上には河原石による支脚が立てられている。主柱穴は1つあり、壁から100~110cm離れ、柱間寸法は290~310cmである。柱穴は直径25~30cmの楕円形で、深さ70~80cm、柱痕跡は直径10~15cmである。火災にあったものと見られ、カマド周辺、南壁際からは炭化材が多量に出土している。

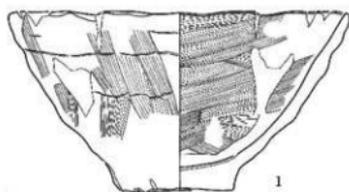
遺物はカマド内に土師器C-198・199甕が並んで出土し、その土師器C-199甕の中に小形の土師器C-200甕が納められていた。カマド右ソダの外側に土師器C-197瓶が、右前よりは土師器C-202鉢などが出土している。

土師器C-198甕(第194図2)は口縁部に明瞭な拵れがなく、下彫れの胴部からやや窄まって開き気味に立ち上が

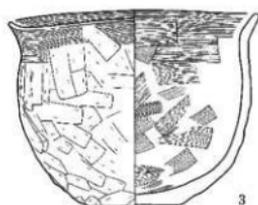


| 遺構名   | 層位 | 土色                     | 土質  | 備考  |
|-------|----|------------------------|-----|---|
| SI290 | 1  | 10YR3/2 黒褐色            | シルト | 黄褐色土をまだら状に含み、焼上、炭化物、マンガン粒を少量含む。aからdまで細分化される |
|       | 2  | 10YR3/3 暗褐色            | シルト | 黄褐色土をまだら状に含み、焼上、炭化物、マンガン粒を少量含む。aからcまで細分化される |
|       | 3  | 10YR3/4 暗褐色            | シルト | 褐色土を含む                                      |
|       | 4  | 10YR4/4 褐色             | シルト | 暗褐色土を小ブロック状に含む                              |
|       | 5  | 10YR4/6 褐色、7.5YR3/6暗褐色 | シルト | 下層部に小穴の焼上。aからdまで細分化される                      |
|       | 6  | 10YR3/3 暗褐色            | シルト | マンガン粒を含む                                    |
|       | 7  | 5YR4/4 に近い赤褐色          | 焼土  | aからcまで細分化される                                |
|       | 8  | 7.5YR3/4 暗褐色           | 焼上  | 炭化物を少量含む                                    |
|       | 9  | 10YR4/6 褐色             | シルト | 土師器断片を含む。aからcまで細分化される                       |
|       | 10 | 10YR5-8 黄褐色            | シルト |   |
|       | 11 | 10YR5-8 黄褐色            | シルト | 暗褐色土を含む                                     |
|       | 12 | 10YR5-6 黄褐色            | シルト | 下層部に小豆人の焼土。a、bと細分化される                       |
|       | 13 | 10YR5-6 黄褐色            | シルト | 黄褐色焼土を部分に含み、炭化物も含む。aからdまで細分化される             |
|       | 14 | 10YR5-8 黄褐色            | シルト | 暗褐色土を小ブロック状に含む。a、bと細分化される                   |
|       | 15 | 10YR4/4 褐色             | シルト | 黄褐色土を含み、炭化物も含む。aからdまで細分化される                 |
|       | 16 | 10YR3/4 暗褐色            | シルト | 黄褐色土をブロック状に含み、炭化物も少量含む。a、bと細分化される           |
|       | 17 | 10YR5-6 黄褐色            | シルト | 褐色土を小ブロック状に含む。                              |

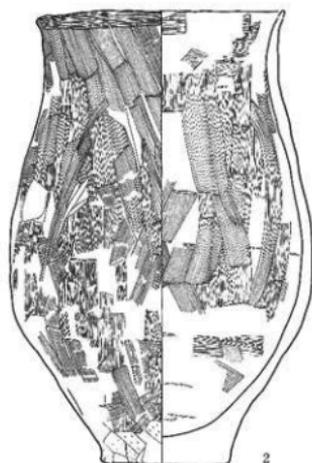
第193図 SI290 平・断面図



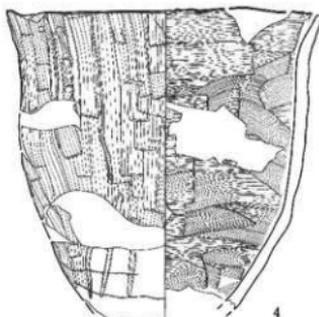
1



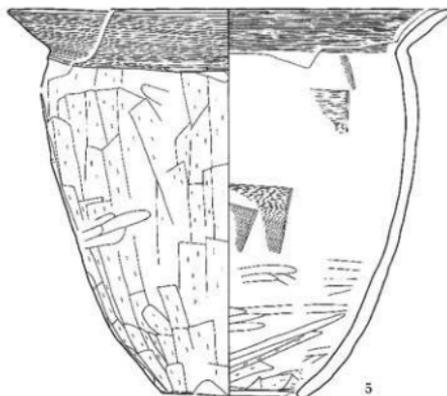
3



2



4



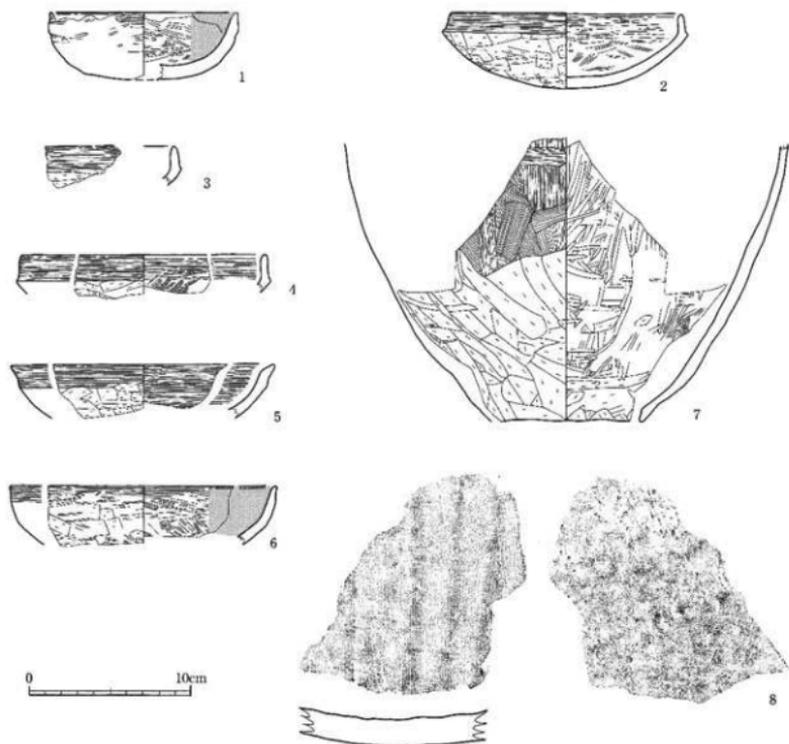
5

| 図版<br>番号 | 分類<br>番号 | 材料  | 形状 | 出土地点 |           | 法量 (cm) |           | 外面調整  | 内面調整                     | 番号                            | 調査<br>回数 | 写真<br>回数 |     |
|----------|----------|-----|----|------|-----------|---------|-----------|-------|--------------------------|-------------------------------|----------|----------|-----|
|          |          |     |    | 川十遺構 | 層位        | 口径      | 底径        |       |                          |                               |          |          |     |
| 1        | C-202    | 土師器 | 鉢  | SE20 |           | 口径11.0  | 底径21.1    | 底径6.8 | 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、底部本葉裏       | ヘラナデ                          | I        | 24       |     |
| 2        | C-198    | 土師器 | 壺  | SE20 | 877<br>灰面 | 口径28.0  | 口径15.3    | 底径8.0 | 口縁部コナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラナデ・本葉裏 | ヘラナデ                          | A/V      | 24       | 672 |
| 3        | C-200    | 土師器 | 壺  | SE20 | 877<br>灰面 | 口径12.1  | 口径15.2~16 | 底径    | 口縁部コナデ、体部底部ヘラナデ          | 口縁部コナデ、体部ヘラナデ                 | B/E2     | 24       | 672 |
| 4        | C-199    | 土師器 | 壺  | SE20 | 877<br>灰面 | 口径再10.1 | 口径19.3    |       | ヘラナデ、一部縁状のナデ             | ヘラナデ                          | A/V      | 24       | 672 |
| 5        | C-197    | 土師器 | 瓶  | SE20 | 877<br>灰面 | 口径26.0  | 口径22.5    | 底径8.7 | 口縁部コナデ、体部ケズリ痕ナデ          | 口縁部コナデ、体部上半ヘラナデ・<br>下半ケズリヘラナデ | T2       | 24       | 672 |

第194図 SI290 出土遺物

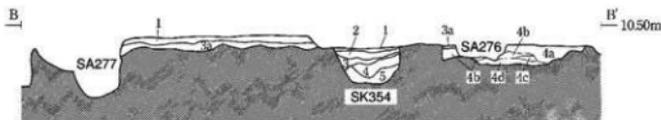
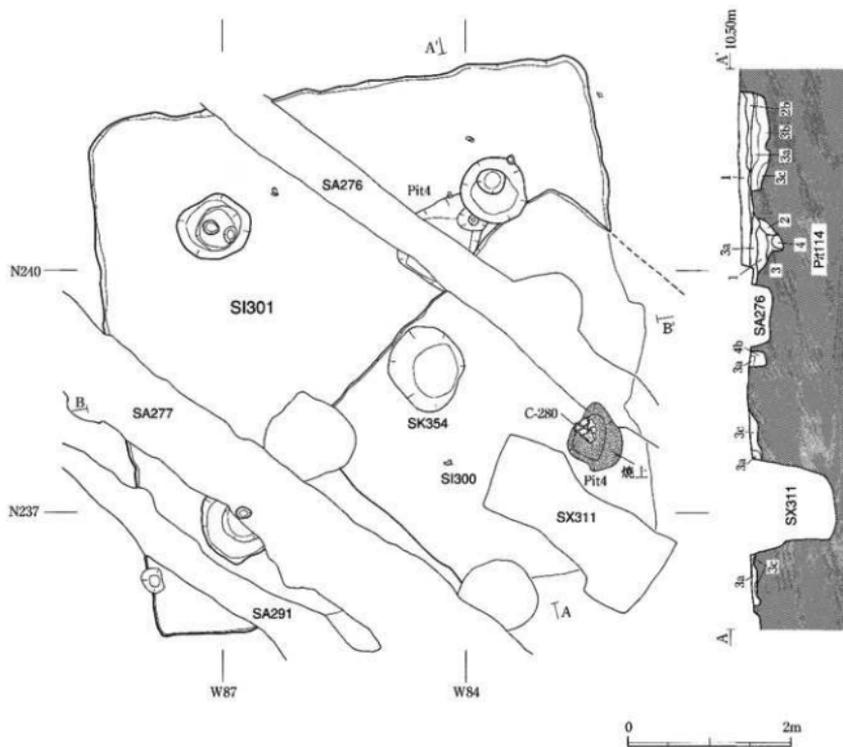
る。外面、内面とも縦方向のヘラナデが施されている。土師器C-199甕(第194図4)は砲弾形を呈し、C-198甕に施されていると同様のヘラナデが、外面は縦方向、内面は横方向に入っている。土師器C-202鉢(第194図1)も同じように外面は縦方向、内面は横方向に入っている。土師器C-200甕(第194図3)は口縁部にやや折れのある小形の甕であるが、器面の表面が薄く溶解し、黒色を呈していることから、使用時に火熱を受けていたものと考えられる。土師器C-197甕(第194図5)は砲弾形で半孔式のもので、外面に顕著なヘラケズリ調整が施されている。

これらの他に小片ではあるが内外面ヘラミガキされた土師器C-214皿あるいは蓋がカマド内より出土している。S1288・289竪穴住居跡、SB287建物跡に切られている。



| 図版<br>番号 | 登録<br>番号 | 類別  | 器形 | 出土地点  |       | 法量 (cm)         | 外観特徴                 | 内面調整                      | 備考    | 調査<br>年度 | 写真<br>掲載 |
|----------|----------|-----|----|-------|-------|-----------------|----------------------|---------------------------|-------|----------|----------|
|          |          |     |    | 甬上遺構  | 層位    |                 |                      |                           |       |          |          |
| 1        | C-276    | 土師器 | 鉢  | SI301 | 廻り方土2 | 径41.15 口径 12.14 | 口縁部ヨコナデ、唇部ヘラミガキ      | ヘラミガキ、黒色処理                | A37a  | 24       | 673      |
| 2        | C-200    | 土師器 | 甕  | SI301 | 庫内    | 器高4.7 口径14.2    | 口縁部ヨコナデ、唇部ヘラミガキ      | 口縁部ヨコナデヘラミガキ、唇部ヘラミガキ      | C311b | 24       | 673      |
| 3        | C-791    | 土師器 | 甕  | SI301 | 床掘    | 残存高2.5          | 口縁部ヨコナデ、唇部ヘラケズリ      | ナゲヘミガキ                    | C311b | 24       | 673      |
| 4        | C-792    | 土師器 | 甕  | SI301 | 廻り方土1 | 残存高2.7 口径 13.50 | 口縁部ヨコナデ、唇部ヘラケズリ      | 口縁部ヨコナデヘラミガキ、唇部ヘラミガキ      | C312a | 24       | 673      |
| 5        | C-790    | 土師器 | 甕  | SI301 | 廻り方土上 | 残存高3.3 口径 16.0  | 口縁部ヨコナデ、唇部ヘラケズリ      | ヨコナデ                      | C312a | 24       | 673      |
| 6        | C-262    | 土師器 | 鉢  | SI301 | P16   | 残存高3.6 口径 16.2  | 口縁部ヨコナデヘラミガキ、唇部ヘラミガキ | 口縁部ヨコナデヘラミガキ、唇部ヘラミガキ、黒色処理 | A37a  | 24       | 673      |
| 7        | C-290    | 土師器 | 甕  | SI301 | P16   | 残存高17.2 底径 9.3  | ヘラナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ     | ヘラケズリ、ヘラミガキ、黒色処理          | 1     | 21       |          |
| 8        | G-13     | 瓦   | 平瓦 | SI301 | 廻り方土上 | 最大長13.6 最大巾11.4 | 内面横タテキースリケン          | 断面、毎日直                    |       | 24       | 673      |

第195図 SI301 出土遺物



| 遺構名   | 層位 | 土色             | 土性     | 備考                 |
|-------|----|----------------|--------|--------------------|
| SI301 | 1  | 10YR4/4 褐色     | シルト    | 遺物を少量含む            |
|       | 2b | 10YR3/2 暗褐色    | シルト    | 新築地土を少量含む。遺物を少量含む  |
|       | 3a | 10YR3/4 に近い黄褐色 | 粘土     | 灰、焼土、遺物を含む(暗褐色)    |
|       | 3c | 10YR7/6 明黄褐色   | 粘土     | 暗褐色粘土をブロック状に含む     |
|       | 4a | 10YR3/4 暗褐色    | 粘土質シルト | 灰化層。粘土質土質に、骨を少量含む  |
|       | 4b | 10YR5/8 明黄褐色   | シルト質粘土 | 焼土を少量含む            |
| SK354 | 4c | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土     | 焼土を少量含む            |
|       | 4d | 10YR4/3 に近い黄褐色 | 粘土     |                    |
|       | 1  | 10YR3/4 暗褐色    | 粘土質シルト | 焼土を少量含む            |
|       | 2  | 10YR2/3 暗褐色    | 粘土     | 赤褐色粘土粒を多量に含む       |
|       | 3  | 10YR5/4 に近い黄褐色 | 粘土     | 灰褐色粘土。遺物土をブロック状に含む |
| Pit14 | 4  | 10YR7/6 明黄褐色   | 粘土     | 明黄褐色粘土をブロック状に含む    |
|       | 1  | 10YR3/3 暗褐色    | 粘土     | 明黄褐色粘土を少量含む        |
|       | 2  | 10YR7/3 明黄褐色   | 粘土     |                    |
|       | 3  | 10YR7/3 明黄褐色   | 粘土     | 暗褐色粘土を少量含む         |
| Pit14 | 4  | 10YR3/1 暗褐色    | 粘土     | 灰化物、焼土を塊状に含む       |

第196図 SI301 平・断面図

#### SI301 竪穴住居跡 (第24次・第38、190、196図)

東西6.3m、南北6.4mの隅丸正方形、深さ15cm程で、壁はほぼ直立する。方向はN-15°-Wで、床面は貼床が貼られ、カマドは東壁側にあったと見られるがSI300竪穴住居跡に切られ不明である。主柱穴は4つと推定されるが、SB311建物跡に切られ不明である。他の柱穴は壁から140cm離れ、柱間寸方は360cmである。柱穴の掘り方は直径90cmの楕円形で、深さ60~70cm、柱痕跡は直径15~20cmである。

遺物は堆積土中からは半球形で丸底、内面黒色処理された土師器C-276坏(第195図1)が出土している。床面からは口縁部が内側に傾きながら短く立ち上がり、体部と口縁部の境に顕著な稜が形成されている土師器C-260坏(第195図2)が出土している。外面は口縁部付近がヨコナデ、体部から底部がヘラケズリのちにヘラミガキ、内面もヘラミガキが施されている。Pit4から出土した土師器C-280瓶(第195図7)は単孔式で内面が黒色処理されている。また同じくPit4から出土した土師器C-262坏(第195図6)は体部中に段や稜がなく内面黒色処理されている。

床面下の掘り方柱土から桶巻き作りで凸面に縄叩き後に横方向のすり消しが行われたG-15平瓦(第195図8)が出土している。きわめて小片であるが土師器C-260坏と同じように口縁部が内側に傾きながら短く立ち上がり、体部と口縁部の境に顕著な稜が形成された土師器C-791・792坏片(第195図3、4)も出土している。これらとも違うきわめて稀な器形の土師器C-790坏(第195図5)があり、口縁部が僅かに屈曲し、外面は口縁部付近がヨコナデ、体部から底部がヘラケズリ、内面はヨコナデ後ヘラミガキが施されている。

全ての遺構に切られている。

#### SI2084 竪穴住居跡 (第148次・第31、190、198図)

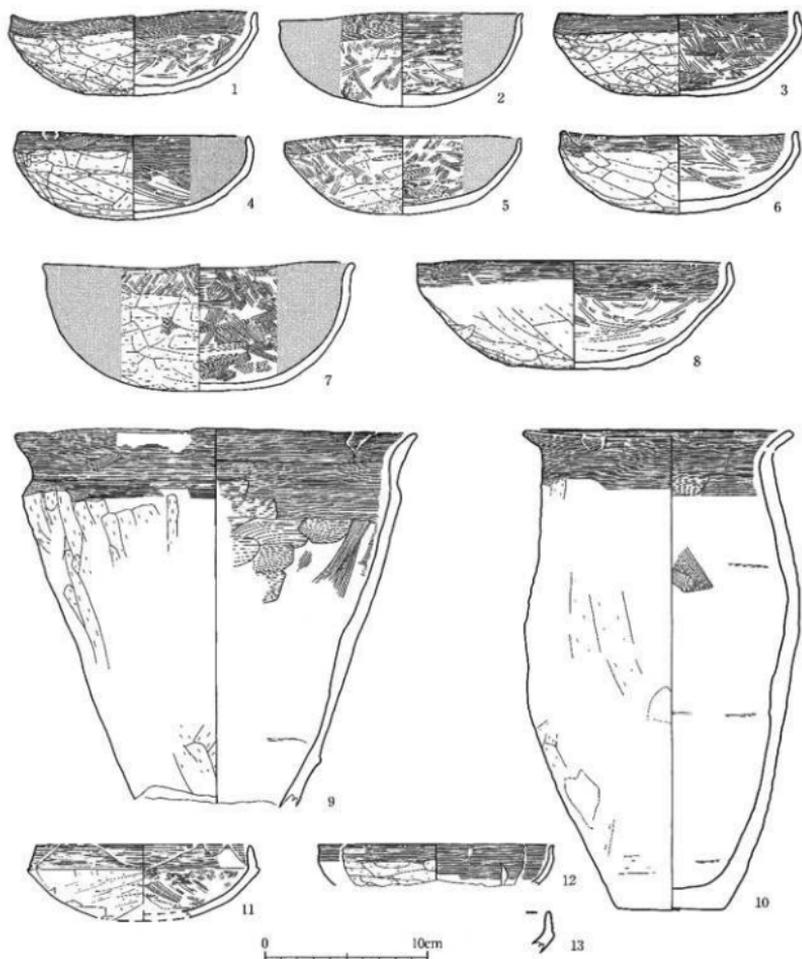
東西3.5m、南北2.5m以上の長方形、床面までの深さは20~30cmで、壁が良好に残存している。方向はE-18°-N(N-18°-W)である。カマドの痕跡は東壁中に確認されたが、ソデや天井、煙道は残存せず、かろうじてソデの痕跡のみ検出された。床面は貼床で、その上に黒褐色あるいはにぶい黄褐色の粘土が堆積していた。

遺物はカマド周辺と床面からまとまって出土した。カマド北側の床面上からは、土師器C-933碗、C-918甕、カマド西側の前面からは土師器C-924杯、カマド南側の床面上からはC-917瓶が出土し、この瓶底部より土師器C-923坏が、瓶口縁部下より土師器C-921・920・925・927坏の4点が入れ子状に重なって出土した(写真図版580)。またこれら4点の坏類に接して、土師器C-922坏が出土している。これらの土器は人為的に重ね置かれていたものと見られ、土器単体としての残存状況もきわめて良好である。

これら出土した土師器環類は口縁部が直立または内湾する形態で、口縁部の内外面にヨコナデ、体部外面にヘラケズリが施される特徴がある。各々の個体の特徴を見ると土師器C-920坏(第197図1)は、口縁部がやや屈曲しながら直立気味となり、内面にヘラミガキが施されている。土師器C-921坏(第197図2)は、口縁部がやや外側に屈曲し、内外面ともヘラミガキが施され、両面黒色処理されていた可能性がある。土師器C-925坏(第197図6)は口縁部が内湾気味となり、内面にヘラミガキが施されている。土師器C-927坏(第197図8)は伴に出土した坏類では最も大型である。このC-927坏は重なって出土した4点(C-921・920・925・927)のうち最下部に位置していた。土師器C-923坏(第197図4)は、口縁部が最も内湾しているもので、内面黒色処理されている。土師器C-922坏(第197図3)は、口縁部がやや直線的に内傾するもので、内面の口縁部と体部の境に稜を有するものである。土師器C-924坏(第197図5)は、他の坏に比べ短い口縁部で直立気味となり、内面黒色処理されている。土師器C-933碗(第197図7)は、器面調整では他の坏とほぼ同じ特徴を有し、両面黒色処理されている。ただしC-921・923坏に比べると黒色が薄いものである。

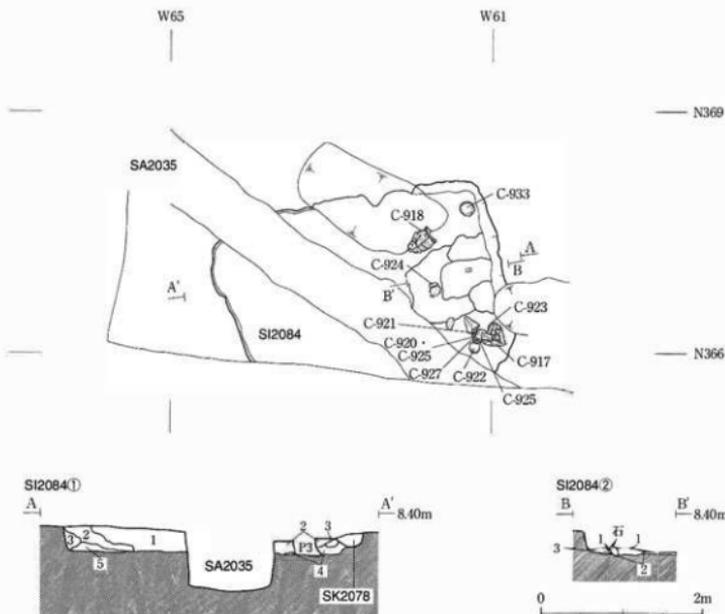
この他に土師器C-917瓶(第197図9)は口縁部の内外面にヨコナデが施され、体部外面はヘラケズリされたものである。また土師器C-918甕(第197図10)は、長胴型で最大径が体部中央にあるものである。

堆積土中からは口縁部の内外面にヨコナデされ、体部外面がヘラケズリされた土師器C-928坏(第197図12)や、



| 図版番号 | 発見番号  | 種類  | 形状 | 出土地点<br>四十遊穂 層位 | 法量 (cm)                       | 外面調査            | 内面調査            | 番号   | 調査<br>次数 | 写真<br>掲載 |
|------|-------|-----|----|-----------------|-------------------------------|-----------------|-----------------|------|----------|----------|
| 1    | C-920 | 土師器 | 杯  | SI2084 床面       | 径26.1 口徑14.9 体高13.2-15.6      | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | C12  | 148      | 784      |
| 2    | C-921 | 土師器 | 杯  | SI2084 床面       | 径高3.75 口徑14.9                 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | C12  | 148      | 784      |
| 3    | C-922 | 土師器 | 杯  | SI2084 床面       | 径高5.2 口徑14.5 体高13.1-13.3      | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | C11b | 148      | 784      |
| 4    | C-923 | 土師器 | 杯  | SI2084 床面       | 径高7.0 口徑10.0 体高10.0-10.8      | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | C11b | 148      | 784      |
| 5    | C-924 | 土師器 | 杯  | SI2084 床面       | 径高4.8 口徑14.4                  | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | C12  | 148      | 784      |
| 6    | C-925 | 土師器 | 杯  | SI2084 床面       | 径高10.0 口徑14.6 体高14.7          | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | C12  | 148      | 784      |
| 7    | C-926 | 土師器 | 碗  | SI2084 床面       | 径27.9 口徑18.7                  | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | C12  | 148      | 784      |
| 8    | C-927 | 土師器 | 杯  | SI2084 床面       | 径高7.1 口徑10.0-10.4 体高10.0-10.8 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | C11b | 148      | 784      |
| 9    | C-917 | 土師器 | 瓶  | SI2084 床面       | 体高24.6 口徑24.6                 | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ナデ    | C12  | 148      | 784      |
| 10   | C-918 | 土師器 | 壺  | SI2084 床面       | 径高27.0 口徑16.5-17.8 体高16.1     | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラミダシ | A11  | 148      | 784      |
| 11   | C-908 | 土師器 | 杯  | SI2084 2        | 径高4.5 口徑 (14.5)               | 口縁部ヘラケズリ        | 口縁部ヘラケズリ        | C12  | 148      | 784      |
| 12   | C-928 | 土師器 | 杯  | SI2084 1        | 径高22.5 口徑 (14.5)              | 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ | 口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ  | C12  | 148      | 784      |
| 13   | C-936 | 土師器 | 杯  | SI2084 2        | 径高2.6                         | 口縁部ヨコナデ、体部ナデ    | 口縁部ヨコナデ、体部ナデ    | C12  | 148      | 784      |

第197図 SI2084 出土遺物



| 遺構名         | 層位 | 土色             | 土性 | 備考             |
|-------------|----|----------------|----|----------------|
| SI2084<br>① | 1  | 10YR3/1 黒褐色    | 粘土 | 黄褐色粘土をブロック状に含む |
|             | 2  | 10YR5/3 に濃い黄褐色 | 粘土 | 黄褐色粘土を少量含む     |
|             | 3  | 10YR7/3 に濃い黄褐色 | 粘土 |                |
|             | 4  | 10YR4/3 に濃い黄褐色 | 粘土 |                |
| FIG         | 1  | 10YR5/4 に濃い黄褐色 | 粘土 | 炭化物、焼土を含む      |
|             | 2  | 10YR5/3 に濃い黄褐色 | 粘土 | 黄褐色粘土を数点状に含む   |
|             | 1  | 7.5YR2/2 黒褐色   | 粘土 | 焼土、炭化物を含む      |
| SI2084<br>② | 2  | 10YR1.7/1 黒色   | 粘土 | 炭化物が中心で黒色土を含む  |
|             | 3  | 10YR4/4 褐色     | 粘土 |                |

第198図 SI2084 平・断面図

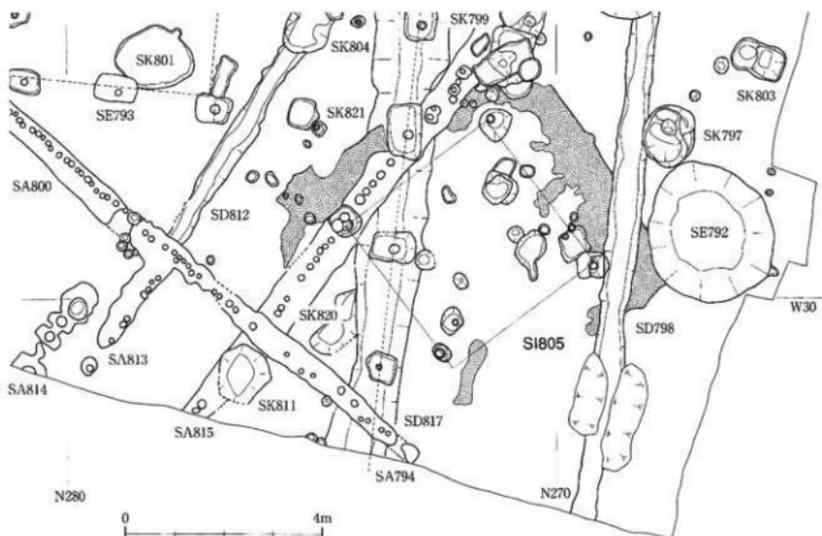
内外面に黒色の付着物が認められる土師器C-938坏(第197図11)、形態的な特徴の類似した土師器C-936坏(第197図13)などが出土している。

SA2035材木列、SK2078土坑に切られている。

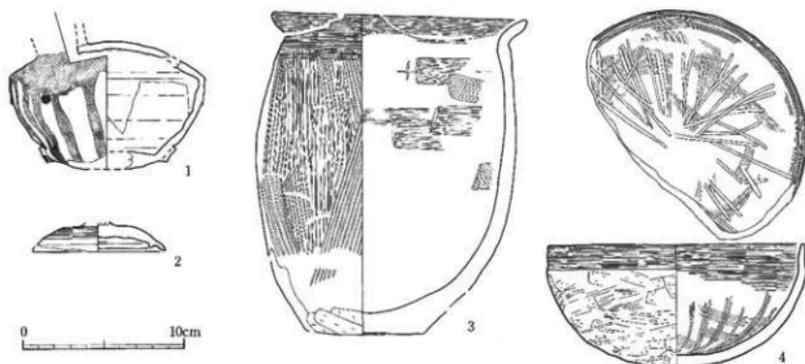
この他に第61次調査区のSI805竪穴住居跡(第199図)もすべてのI期官衙の遺構に切られているが、遺構の残存状況が極めて悪い上に、遺物も固化するものが須恵器E-269平版(第200図1)のみなので、ここでは上記の竪穴住居跡とは記載の方法を変更した。また本節の「3. その他」でSB426建物跡との関連で取り上げるSI441・444竪穴住居跡についても、遺構の検出状況や遺物の出土状況から記載の方法を変更している。

これらの竪穴住居跡のほかに遺構の検出状況や出土遺物から、確実にI期官衙以前に位置付けられない遺構は取り上げなかった。第79次調査区のSI1209竪穴住居跡は、出土した土師器坏の特徴は類似するが遺構の全容が明らかでないことと、II期官衙の遺構とは重複するが、I期官衙の遺構とは重複がないことに留意した。同じく第102次

調査区のSI1495竪穴住居跡(第46図)もⅡ期官衙の遺構には切られているが、Ⅰ期官衙の遺構とは重複がなかった。また第87次調査区のSI299竪穴住居跡も、出土した土師器の特徴は同じものが含まれているが、Ⅰ期官衙の遺構とは重複がないため、ここでは取り上げなかった。



第199図 SI805 平面図



第200図 その他の出土遺物

| 図版番号 | 発見番号  | 種類  | 形状 | 出土地点<br>西七瀬橋   層位 | 寸法 (cm)                | 外面装飾                     | 内面装飾                | 備考    | 調査<br>次数 | 所占<br>図版 |
|------|-------|-----|----|-------------------|------------------------|--------------------------|---------------------|-------|----------|----------|
| 1    | E-309 | 陶土器 | 平瓶 | SI805             | 残高78 底径3               | 体部ロクロナデ、底部磨転ヘラケズリ        | ロクロナデ               |       | 61       | 716      |
| 2    | H-215 | 陶土器 | 壺  | SI411             | 残高18   口径6.4           | ロクロナデ                    | ロクロナデ、オモリ台          | 11    | 35       | 662      |
| 3    | C-473 | 土師器 | 壺  | SI441             | 底径   残高197   口径   底径72 | 1   磨転ロクロナデ、体部ヘラケズリ、底面磨転 | 1   磨転ロクロナデ、底部ヘラケズリ | A 1 a | 33       | 582      |
| 4    | C-636 | 土師器 | 平  | SD1041            | 残高76   口径7.9           | 1   磨転ロクロナデ、底部ヘラケズリ      | 1   磨転ロクロナデ、底部ヘラケズリ | 目録2   | 70       | 733      |

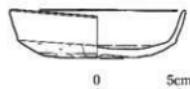
## 2. 寺院造営以前の遺構

郡山廃寺とした寺院の造営以前にも少数ながら遺構があり、そこから遺物が出土している。これらの遺構は出土した遺物から、官衙の造営以前か1期官衙の時期である可能性が高い。寺院の創建と終末については「第6章考察第2節 遺構の変遷とその性格 3. 郡山廃寺」で触れるが、遺跡南部における寺院造営以前の遺構、遺物について取り上げる。

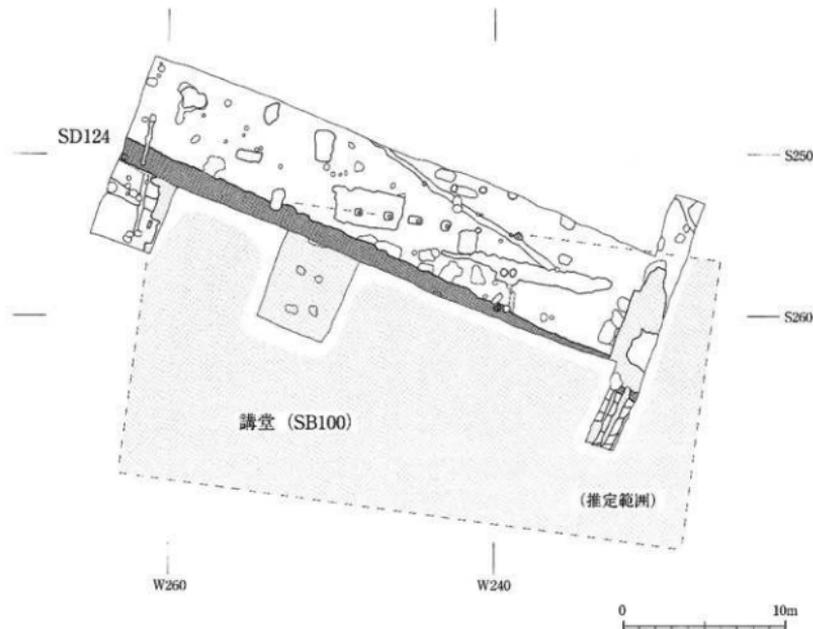
### SD124溝跡（第12次・第164、202図）

上幅140cm、下幅50～70cm、深さ55cm程で、断面形はU字形である。方向はE-17°-Sである。堆積土の上層より、底部がヘラ切り後に回転ヘラケズリされた須恵器E-25坏(第201図)が出土している。この溝跡はSB100基壇建物跡の版築基壇の下層で検出されたもので、講堂の建てられる以前の遺構である。

SB100基壇建物跡に被われて(切られて)いる。



第201図 SD124 出土遺物



第202図 SD124 位置図

### SD1041溝跡（第70次・第164図）

長さ26.5m以上、上幅45～65cm、下幅35～45cm、深さ0～32cm程で、N-33°-Wの方向に延びる溝跡である。さらに調査区外の南方に延びている。壁は垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。

遺物は堆積土中より内面ナデ調整で、放射状のヘラミガキがされた土師器C-636坏(第200図4)が出土している(註23)。

郡山廃寺に関連したSI1028・1034堅穴住居跡に切られている(註24)。

### SK2053土坑（第146次・第205図）

長軸170cm以上、短軸75cm程の楕円形の土坑と推定され、深さは40cm程である。壁は直立気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。方向は長軸でN-21°-Eである。埋土は3層である。

遺物は土坑の北部から金銅製のN-117・118耳環(第203図2、3)が15cm程離れて出土し、底面よりは土師器の小片が1点出土した。なお検出時に直上から口縁部と体部の境に屈曲がある、内外面が漆仕上げされた土師器C-939坏(第203図1)が出土した(註25)。この土坑に伴っている可能性が高い。

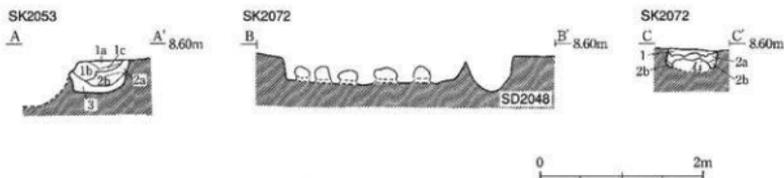
SD1009溝跡に切られている。

### SK2072土坑（第146次・第205図）

長軸220cm程、短軸55~60cm程の隅丸長方形の土坑で、深さは25~30cmである。壁は直立気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。方向は長軸でN-26°-Eで、埋土は3層である。底面に人頭大の河原石5個が長辺を横にして並んで配置されている。

遺物は第3層より土師器の小片が1点出土している。

SD2052溝跡を切り、SB2025建物跡、SD2048溝跡に切られている。



第203図 SK2053 出土遺物

| 層位          | 土色           | 土性 | 備考                 | 層位          | 土色          | 土性    | 備考         |
|-------------|--------------|----|--------------------|-------------|-------------|-------|------------|
| SK2053 A-A' |              |    |                    | SK2072 C-C' |             |       |            |
| 1a          | 10YR3/3 暗褐色  | 粘土 | 所定褐色粘土を少量含む        | 1           | 10YR2/3 黒褐色 | シルト   | 褐色土等の混合土   |
| 1b          | 10YR3/3 暗褐色  | 粘土 | 所定褐色粘土を少量含む。断面10以上 | 2a          | 10YR3/3 暗褐色 | 砂質シルト |            |
| 1c          | 10YR3/3 暗褐色  | 粘土 | 所定褐色粘土をブロック状に含む    | 2b          | 10YR2/4 暗褐色 | 砂     | 地山と地と変わらない |
| 2a          | 10YR2/3 黒褐色  | 粘土 | 河原石N117用土          |             |             |       |            |
| 2b          | 10YR2/3 黒褐色  | 粘土 | 所定褐色粘土を少量含む        |             |             |       |            |
| 3           | 10YR3/2 灰青褐色 | 粘土 | 砂、黒褐色土を含む          |             |             |       |            |

第204図 SK2053・2072 断面図

### 3. その他

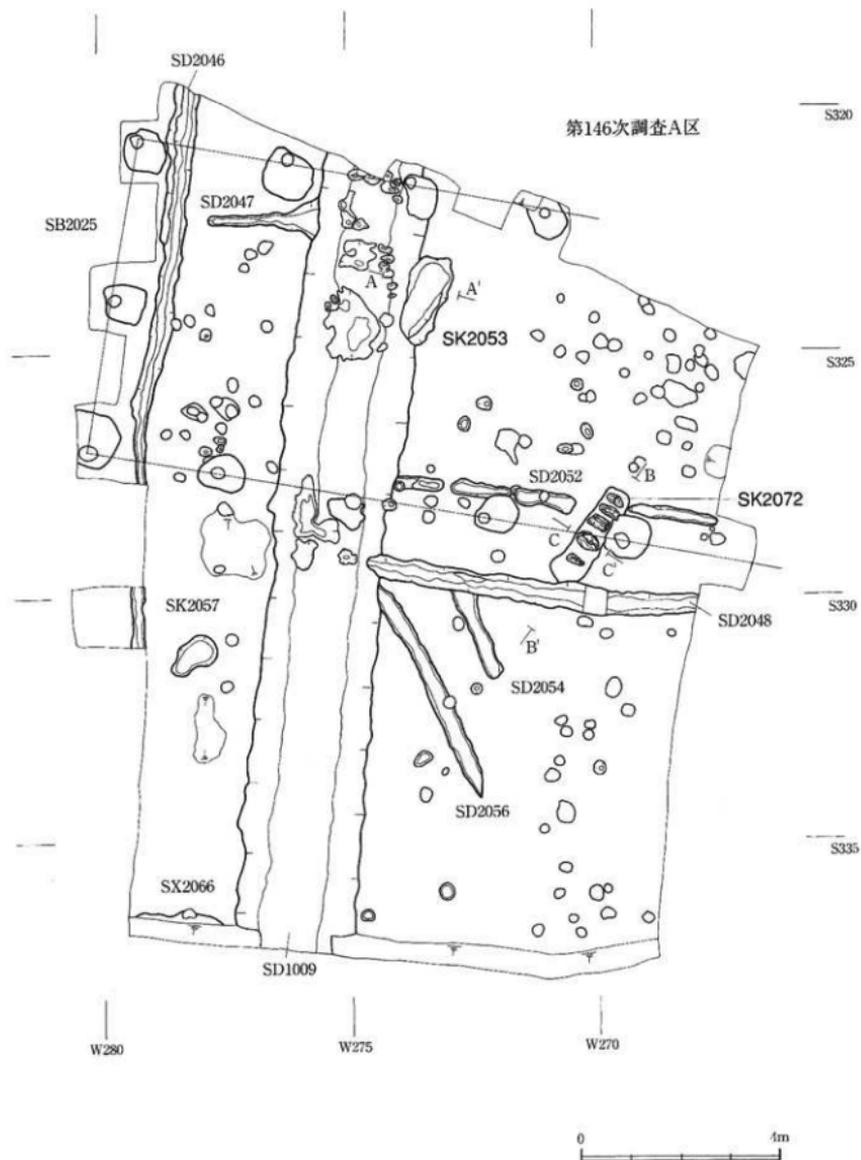
これまで「I期官衙以前の堅穴住居跡」と「寺院造営以前の遺構」について取り上げたが、ここではその他の遺構の中でI期官衙の造営以前の様相や、I期官衙からII期官衙への建替えなどを検討する際に、重要となる遺構について触れることにする。

#### SD1367溝跡（第96次・第57図）

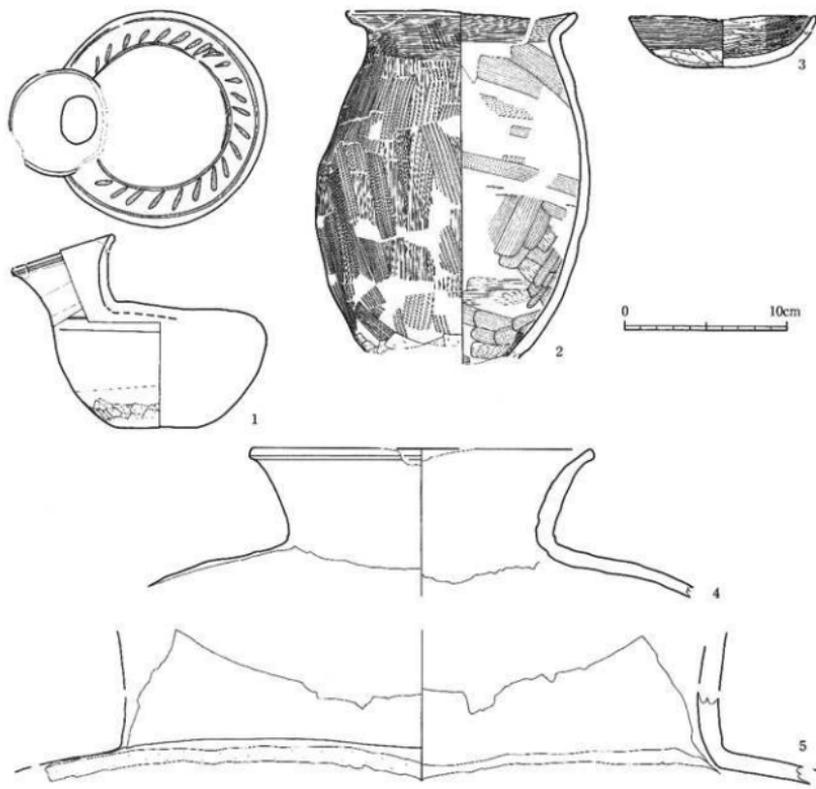
上幅110~350cm、下幅30~200cm、深さ20~130cm程で、断面形は逆台形で底面と壁の一部に凹凸がある。底面から上部へ緩い傾斜で立ち上がるため、掘削による削平が著しい。形状より溝の外側で直径30m程の円形に巡る溝跡と推定される。堆積土の上層(第1、2層)には基本層位第III層と類似した白色の粘土が多量にブロックとなって含まれている。また同一個体となる土師器の破片が層中よりまとまって出土していることなどから、この溝跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。

遺物は第1層から第3層上面まででまとまって出土している。土師器C-717坏(第206図3)は内面黒色処理され

第146次調査A区



第205図 SK2053・2072 平面図



| 図版番号 | 登録番号  | 種別  | 形状 | 出土地点   | 所上層 | 層位                | 注量 (cm)                    | 外面割装            | 内面割装  | 備考 | 高さ  | 口径 |
|------|-------|-----|----|--------|-----|-------------------|----------------------------|-----------------|-------|----|-----|----|
| 1    | E-361 | 須恵器 | 平飯 | SD1367 | 3c  | 原高12 口径64 底径5     | 口縁部コクロナテ、胴部コクロナテ、底面、底部ヘラナテ | 口縁部コクロナテ        | 片面に割装 | 56 | 744 |    |
| 2    | C-718 | 土師器 | 甕  | SD1367 | 1   | 残存高21.8 口径14.3    | 口縁部コクロナテ、胴部コクロナテ、底面ヘラナテ    | 口縁部コクロナテ、底部ヘラナテ | A11a  | 96 | 744 |    |
| 3    | C-717 | 土師器 | 杯  | SD1367 | 1   | 原高3.2 口径1.6 底径0.9 | 口縁部コクロナテ、底部ヘラナテ            | ヘラナテ、黒色焼成       | A8a1  | 56 | 744 |    |
| 4    | E-354 | 須恵器 | 甕  | SD1367 | 1   | 残存高9.2 口径20.7     | 口縁部コクロナテ、胴部コクロナテ           | 口縁部コクロナテ、体部同心円文 | I     | 96 | 744 |    |
| 5    | E-357 | 須恵器 | 甕  | SD1367 | 1-3 | 残存高9.3            | 口縁部・体部コクロナテ                | 口縁部コクロナテ、体部同心円文 | B2    | 96 |     |    |

第206図 SD1367 出土遺物

た丸底で、外面に縋い段があり口縁部にかけてやや丸みを持ちながら外傾して立ち上がっている。土師器C-718甕(第206図2)は口縁部が「く」の字状に外反し、口縁部から胴部にかけて明瞭な段を有さず、胴部中央が僅かに膨らむものである。また土師器C-719甕は器面の摩滅が著しく、全体の器形を復元するには到らなかった。須恵器E-354甕(第206図4)は口縁部が平坦で、頸部に文様等が施されないものである。須恵器E-357甕(第206図5)は推定される頸部径が37cm以上になる大甕の破片である。その他に第1層から第2層にかけて外面格子叩きで内面が同心円文の当具痕のある須恵器E-359・360甕片が出土している。また調査区南壁際の最下層から体部中に刺突が巡る須恵器E-361平飯(第206図1)と須恵器E-351甕の底部片が出土している。

I期官衙の遺構であるSA272・1380材木列、ならびにII期官衙の遺構であるSB1395・1370建物跡、SA1365材木列に切られている。

このような形状の溝跡は、同調査区で西に隣接するSD1372溝跡や、第65次調査区のSD1108・1115・1127円形周溝などがあり、遺跡内で少数発見されている。このうちSD1108・1115円形周溝は寺院東方建物群を構成する掘立柱建物跡を切っており、II期官衙以降の時期のものである。SD1127円形周溝は官衙の遺構との重複がなく、出土遺物にも年代を検出出来るものが含まれていないので詳細を明らかに出来ない。第96次調査区で発見されたSD1367・1372溝跡は、I期官衙の遺構に切られており、官衙が造られる以前の遺構である。また全容を検出していないので断定は出来ないが、SD1367溝跡は直径で30m、SD1372溝跡は直径で15m程の円形周溝となる可能性が高い。他の円形周溝はSD1108が直径6.8m、SD1115が直径8m、SD1127が直径9～12mの楕円形となり、SD1367・1372両溝跡から推定される円形周溝とは規模の点で大きく異なっている。とりわけSD1367溝跡は直径30mであり、仙台平野で7世紀前半代の円墳とされている墳丘径32mの法領塚古墳に匹敵する大きさとなっている。しかし調査時にこれら溝跡の全体を把握できなかったこと、溝跡周辺から墳丘の積り土や石室の石材などが全く発見されなかったため、古墳とは断定しなかった。現在もその見解を継承するが、削平された古墳の可能性を否定するものではない。今後、溝跡の延長部分で調査が実施され、墳丘や石室の痕跡が発見されるのを待って判断したい。

むしろここで注目したいのは溝跡からの出土遺物である。これらは人為的に埋め戻された土層から出土している。年代については土師器環の形態などからは年代観をしばらく込むのに難しい点があるが、須恵器平瓶を重視するならば溝跡が埋め戻されたのは7世紀の第3四半期頃と考えられた(註26)。これらの遺物が徐々に埋没する溝の中に入り込んだのではなく、人為的に埋め戻された土層の中に入り込んでいるのである。その溝跡が全てのI期官衙の遺構に切られている事を考えれば、I期官衙南辺の造営に伴い溝跡が埋め戻されたと考えることが出来る。よってこのSD1367溝跡の出土遺物が、I期官衙南辺の造営に伴って入り込み、その時期を示している可能性が高いと考えている。

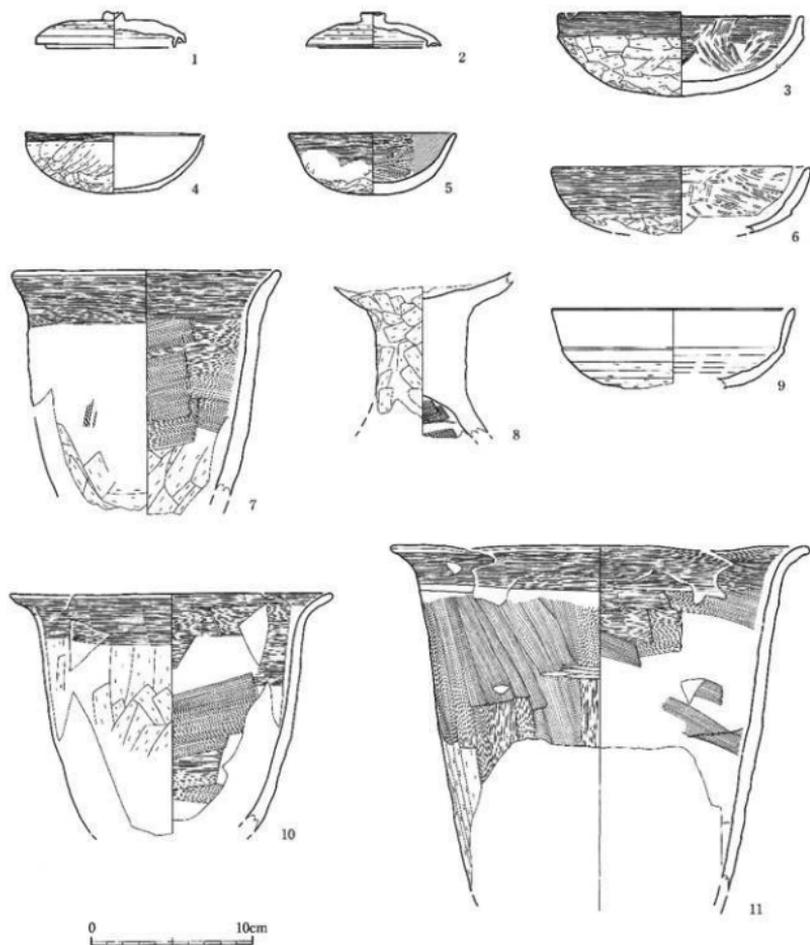
#### SI289竪穴住居跡(第24次・第75図)

床面まで削平が及び、東半は消失していた。南北5.6m、東西も主柱穴の配置からほぼ5.6mと推定される正方形である。最も残りの良い西壁でN-12°-Eの方向である。床面は貼床で、西壁中にカマドがあったと想定されるが、削平のため詳細は不明である。主柱穴は4つあり、壁から100～110cm離れ、柱間寸方は340～350cmである。柱穴は直径60～70cmの不整形円形で、深さは50cm程、柱痕跡は直径15～20cmである。

遺物は床面上から土師器C-176・178・191・192杯、C-180高杯、C-193・195・196甕、須恵器E-117・118蓋、E-130杯などが出土している。

土師器C-176杯(第207図3)は、口縁部が直立気味に短く立ち上がり、体部と口縁部の境に顕著な稜が形成されている。外面は口縁部付近がヨコナデ、体部から底部がヘラケズリ、内面はヨコナデの後にヘラミガキが施されている。C-178杯(第207図4)は、半球形で口縁部付近に屈曲があり、体部から底部にかけてヘラケズリで内面は不明瞭ではあるがナデが施されている。C-191杯(第207図6)は口縁部と体部の境に明瞭な段を有し、口縁部は内湾しながら立ち上がっている。外面の口縁部がヨコナデ、底部がヘラケズリ、内面はヘラミガキの後、黒色処理されている。C-192杯(第207図5)は小型で、外面に段や稜を持たず、口縁部にかけて直線的に外傾している。外面の口縁部から体部がヨコナデ、底部がヘラケズリ、内面はヘラミガキの後、黒色処理されている。C-180高杯(第207図8)は柱状の脚部と内面黒色処理された杯部を有している。

土師器C-193甕(第207図7)は、砲弾形をし、外面の口縁部付近がヨコナデ、体部がハケメの後にナデ、内面はヘラナデが顕著である。C-195甕(第207図11)は、同じく砲弾形をし、外面の口縁部付近がヨコナデ、体部にヘラケズリが施され、下半に火熱を受けた跡がある。内面はヘラナデが施されている。C-196甕(第207図10)は長筒形



| 図版番号 | 器種    | 形状  | 出土層位  | 出土層位 | 注量 (cm)             | 外周調整                      | 内周調整  | 絵手    | 調査<br>次数 | 写真<br>図版 |
|------|-------|-----|-------|------|---------------------|---------------------------|---|-------|----------|----------|
| 1    | B-117 | 深鉢  | SI289 | 1    | 器高3.3 LI径9.2        | ロクロナデ、天舟部刷毛ヘラケズリ          | ロクロナデ   | I 1b  | 24       | 671      |
| 2    | B-118 | 浅鉢  | SI289 | 1    | 器高2.2 LI径8.4        | ロクロナデ、天舟部刷毛ヘラケズリ          | ロクロナデ   | I 1b  | 24       | 671      |
| 3    | C-176 | 土師器 | SI289 | 岸田   | 器高5.2 LI径15.0       | 刷毛部ヨコナデ、底部ヘラケズリ           | 刷毛ヨコナデ、器高2.2径9.2 (I 1b)、器高2.2径9.2 (I 1b)、器高2.2径9.2 (I 1b) | C 11  | 24       | 671      |
| 4    | C-178 | 土師器 | SI289 | 岸田   | 器高3.7 LI径11.0 底径5.8 | 刷毛部ヨコナデ、底部・底唇ヘラケズリ        | 刷毛  | B II  | 24       | 671      |
| 5    | C-192 | 土師器 | SI289 | 1    | 器高3.4 LI径11.0 底径5.8 | 刷毛部ヨコナデ、底部・底唇ヘラケズリ        | 1等キ、黒色刷毛  | A 17a | 24       | 671      |
| 6    | C-191 | 土師器 | SI289 | 1    | 残存高4.2 LI径13.7      | 刷毛部・底唇ヨコナデ、底唇ヘラケズリ        | ヘラミダキ   | A 11a | 24       | 671      |
| 7    | C-193 | 土師器 | SI289 | 1    | 残存高15.1 LI径16.1     | 刷毛部ヨコナデ、底部ハタメヘラケズリ        | 刷毛部ヨコナデ、底部ヘラケズリ→ヘラナデ                                      | A 11a | 24       | 671      |
| 8    | C-180 | 土師器 | SI289 | 岸田   | 残存高10.3             | 刷毛部ヨコナデ                   | 刷毛部ヘラナデ、灰泥イダキ、黒色刷毛  | I 1   | 24       |          |
| 9    | B-130 | 深鉢  | SI289 | 1    | 残存高3.0 LI径14.8      | 刷毛部ヨコナデ、器高2.2径9.2→刷毛部ヨコナデ | ロクロナデ   | I 2   | 24       | 671      |
| 10   | C-196 | 土師器 | SI289 | 1    | 残存高14.8 LI径19.8     | 刷毛部ヨコナデ、底部ヘラケズリ           | 刷毛部ヨコナデ、底部ヘラナデ  | A 11  | 24       | 671      |
| 11   | C-195 | 土師器 | SI289 | 1    | 残存高21.4 LI径23.4     | 刷毛部ヨコナデ、底部ヘラケズリ→ヘラナデ      | 刷毛部ヨコナデ、底部ヘラナデ  | A 1b  | 24       | 671      |

第207図 SI289 出土遺物

をし、外面の体部上半がヘラナデ、下半がヘラケズリ、内面の体部はヘラナデが施されている。口縁部は内外面ともヨコナデである。

須恵器 E-117・118 蓋(第207図 1、2)は、端部の径が 9 cm 程の小型の蓋で、ともに中央が窪むボタン状のツマミを有し、内面にカエリのあるものである。E-117 蓋の外面端部が  形に折り曲がる形状をしている。E-130 環(第207図 9)は、口縁部と体部の境に明瞭な段を有する上師器の環に似た形態のものである。

SI290 竪穴住居跡、SB287 建物跡(Ⅱ期官衙)を切り、SI288 竪穴住居跡(Ⅱ期官衙)に切られている。

この竪穴住居跡は発見された当時はⅡ期官衙に所属するものと考えられた(註27)。しかしその後の発掘調査で、Ⅱ期官衙では真北方位からこれほど東に振れる遺構がないことや、Ⅰ期官衙の遺構を切り、Ⅱ期官衙の遺構に切られていることを考えると、Ⅱ期官衙の創建設階の遺物より遡る可能性があること(註28)から、Ⅰ期官衙とⅡ期官衙の中間に位置付けられる。遺構の性格としては官衙の建替え時に伴う仮りの施設の可能性を考えたい。

#### SB426 建物跡(第35次・第35図)

桁行 2 間、総長 5.24 m(柱間寸法 256~274 cm)、梁行 2 間、総長 3.45 m(柱間寸法 150~189 cm)の東西棟の小規模な建物跡で、桁行の方向は N-54°-E である。柱穴は一辺 60~90 cm の隅丸方形で、深さは 15~65 cm、柱痕跡は直径 14~20 cm である。

SK392 土坑を切り、SD385 溝跡(Ⅱ期官衙)に切られている。

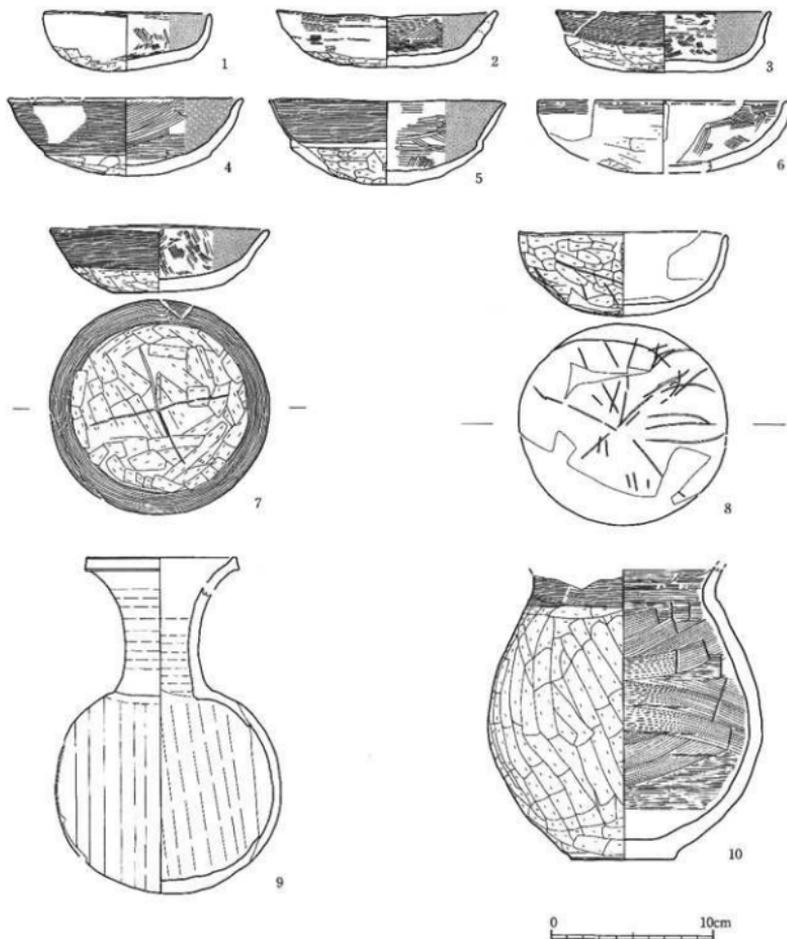
この建物跡は発見された当時、Ⅱ期官衙の溝跡に切られていることから、Ⅰ期官衙以前に遡る可能性を示しながらもⅠ期官衙に所属するものと考えられた(註29)。ただし官衙の建物としては規模が小さく、この方向を示すⅠ期官衙の遺構も他には見つかっていない。Ⅰ期官衙の遺構に限定することは難しいと考えられる。この建物跡の北には 4 m 離れ N-43°-E 方向の SI444 竪穴住居跡があり、さらにその北にも同方向の SI441 竪穴住居跡(註30)が立ち並んでいる。これらの竪穴住居跡はⅠ期官衙の遺構に切られており、明らかに官衙より遡るものである。SB426 建物跡はⅠ期官衙の遺構との重複はないが、周辺にⅠ期官衙以前となるこのような竪穴住居跡が存在し、それに近似する方向を示していることから官衙以前に遡る小規模な掘立柱建物跡の可能性を考えておきたい。

#### 2 号住居跡(昭和54年度調査区・第116図)

東西 6.6 m、南北 3~3.3 m の長方形で、床面までの深さは 25~30 cm である。方向は N-15°-E で、カマドは南壁中に 2 箇所に付けられていた。主柱穴や周溝は検出されなかった。遺物は床面からまともに出土した。

東区 1 号掘立柱建物跡(Ⅱ期官衙)に切られている。

床面上から多数の遺物が出土していた(註31)。発見された当時は、これらを東北地方の土師器編年の中で同分寺下層式期の遺物として報告した(註32)。しかし土師器環の中に半球形で体部外面にヘラケズリ調整が顕著な、いわゆる関東系土師器の C-79-9 環(第208図 8 参照)が含まれていること、明瞭にⅡ期官衙の遺構に切られていることなどから、遺構の時期を訂正したい。この地区はⅠ期官衙東辺の外側に位置し、この地区を含め周辺からもⅠ期官衙の遺構は発見されていない。さらにほぼ真北方向の東区 1 号掘立柱建物跡より以前であり、出土遺物の中にⅠ期官衙後半期の土師器環と特徴の類示するもの(註33)が含まれていることを考慮すれば、Ⅱ期官衙とは別時期でその直前に位置付けられる遺構と見ておきたい。



| 図版番号 | 登録番号  | 種類  | 形状  | 出土地点<br>層上遺物 層位 | 法量 (cm)      | 外面装飾                  | 内面装飾                | 備考      | 所在<br>次数 | 写真<br>提供 |
|------|-------|-----|-----|-----------------|--------------|-----------------------|---------------------|---------|----------|----------|
| 1    | C794  | 土師器 | 杯   | 2号住居 1b         | 器高4.0 口径10.4 | 口縁部縦線、底部ヘラケズリ         | ヘラミガキ、灰色地肌          | A17 1a  | 1976     | 630      |
| 2    | C797  | 土師器 | 杯   | 2号住居 1          | 器高3.5 口径13.6 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ       | ヘラミガキ、黒色地肌          | A17 3   | 1976     | 630      |
| 3    | C796  | 土師器 | 杯   | 2号住居 成層         | 器高3.7 口径13.6 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ→ヘラミガキ | ヘラミガキ、黒色地肌          | A17 2   | 1976     | 630      |
| 4    | C793  | 土師器 | 杯   | 2号住居 2          | 器高1.8 口径13.2 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ→ヘラミガキ | ヘラミガキ、黒色地肌          | A17 2   | 1976     | 630      |
| 5    | C798  | 土師器 | 杯   | 2号住居 2b         | 器高2.2 口径14.6 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ       | ヘラミガキ、黒色地肌          | A17 2   | 1976     | 630      |
| 6    | C7910 | 土師器 | 杯   | 2号住居 かつ         | 器高1.5 口径15.1 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ       | ヘラミガキ、灰色地肌          | A17 1a  | 1976     | 630      |
| 7    | C795  | 土師器 | 鉢   | 2号住居 5          | 器高4.3 口径13.2 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ・口縁部縦線 | ヘラケズリ→ヘラミガキ、黒色地肌    | A17 2   | 1976     | 630      |
| 8    | C799  | 土師器 | 鉢   | 2号住居 2b         | 器高3.2 口径12.8 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ       | 縦線                  | C12 2   | 1976     | 630      |
| 9    | C798  | 土師器 | 長頸瓶 | 2号住居 2a         | 器高20.8 口径6.0 | 口縁部ヨコナデ、口縁部縦線         | 口縁部ヨコナデ→下唇十字、鼻緒ヨコナデ | 7122号区画 | 1976     | 630      |
| 10   | C791  | 土師器 | 壺   | 2号住居 P2 4 2     | 器高15.1 口径5.0 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ       | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ     | 712     | 1976     | 630      |

第208図 2号住居跡(昭和54年度調査区)出土遺物

## 第6章 考察

### 第1節 出土遺物

郡山遺跡から出土した遺物は、調査開始から収納箱にして1,000箱分に達している。それらの主体は官術の時期に使用された土師器、須恵器、瓦などで、他に縄文土器、弥生土器、陶磁器、石器、金属製品、木製品などがある。ここでは官術、寺院に関する遺物とそれ以前の集落(竪穴住居跡)からの遺物について検討を加え、遺跡の年代や性格を明らかにすることに努める。

#### 1. 土師器

出土した土師器は、坏、壺、小型壺、壺、高坏、甗、鉢などで、この他に稀にはあるが壺、台付壺などがある。特に断りがない限り、製作に際しロクロを使用していないものである。これらの土師器を観察すると、特徴から[土師器分類(1)~(3)]のように分けられる。分類は各々の器種、器形の中で特徴を捉え安くなる目的で行い、官術、廃寺とそれ以前の竪穴住居跡の出土遺物を対象とした。製作における調整技法、法量、形態などの特徴により分類している。器種、器形によっては特徴が異なるため、分類の視点が異なっている。分類の中で重要な要素については、A、B以下のアルファベット大文字で、次の特徴はI、II以下のローマ数字で、続く細部の特徴は1、2…のアラビア数字、a、b…のアルファベット小文字、i、ii…の記号で表記している。きわめて大きく分けられる特徴のないものについては、アルファベットによる記載を略している。

#### 坏

坏では外面のI[縁部と体部の境に段や稜を有し、内面が黒色処理されるもの[A類]と、II[縁部に屈曲があり全体の器形が半球形のもの[B類]とがある。さらにこれらA類、B類とは異なった特徴を示すもの[C類]がある。これらは各々の細部の形態的特徴や調整技法により、さらに細別された。

外面の口縁部と体部の境に段や稜を有し、内面が黒色処理されるA類は、東北地方の土師器編年で古墳時代後半の特徴を示し「栗園式」の中に位置付けられるもの(註34)である。とりわけI期官術のSI1018やSK489出土の土師器C-630、511坏(AⅠ類)は、栗園式の標識遺跡となった栗園遺跡出土の口縁部と体部の境に段を有し、I[縁部にかけて外反する土器類と同じ形態を示している。これ以外の土師器坏で量的に多いのは、II[縁部にかけて外傾するもの(AⅡ類)や内湾気味になるもの(AⅢ類)である。これらのうちAⅡ2、AⅡ3、AⅢ1、AⅢ2類は、いずれも陸奥国分寺僧房西建物基壇南側の溝跡や、宮城県松山町亀井園横穴13号墳、仙台市善応寺横穴8号墳出土の有段で丸底を早する坏類の検討(註35)の中では、東北地方の土師器編年で言う奈良時代半ば以降とされる「国分寺下層式」より先行することが指摘されている形態である(註36)。また塩沢北遺跡(蔵王町)の1号住居跡においても、本書土師器分類のAⅡ3類あるいはAⅢ2類と類似した坏が出土し、福島県郡山市に所在する麓山窯跡出土の須恵器坏と類似するものと併せており、それら土器群には8世紀初頭の年代が与えられている。このように概ね東北地方における土師器編年の「栗園式」から「国分寺下層式」にかけての移行期に位置付けられるものである。そのうち内湾気味となるSI549床面から出土した土師器C-525坏(AⅢ2類)は、口径が20cmを超えるもので、栗園遺跡出土の土師器坏の中でも坏大型と分類されるもの(註37)で、AⅡ、AⅢ類の中にあってはやや古相のものと考えられる。

またこれらの他に内面黒色処理されるが、外面のI[縁部と体部の境に段や稜を有さないもの(AⅣ類)がある。先に触れたSI1018に先行するSI1019から出土した土師器C-633坏は、外面に段や稜を有さず、内面がヘラミガキのち黒色処理されている(AⅣ1類)。このような形態の土師器は、I期官術の重要な内部区画となっているSA255より先行するSA276(第38、28回、第8表)からも出土(69図1)し、I期官術の創建段階から存在していることが考えられる。なお口縁部に違いがあるが、半球形のこのような形態のものは既にI期官術以前の竪穴住居跡からも出土している(註38)。

[土師器分類 (1)]

坏

A：内面が黒色処理されるもの

- I 外面の口縁部と体部の境に段や稜を有し、口縁部が外反気味に外傾するもの
- II 外面の口縁部と体部の境に段や稜を有し、口縁部が直線的に外傾するもの
  - 1 段や稜の位置が上部にあるもの a 内面のみが黒色処理される b 内、外面とも黒色処理される
  - 2 段や稜の位置が中位にあり、内面のみが黒色処理される
  - 3 段や稜の位置が下部にあり、内面のみが黒色処理される
- III 外面の口縁部と体部の境に段や稜を有し、口縁部が内弯気味に立ち上がるもの
  - 1 段や稜の位置が中位にあり、内面のみが黒色処理される
  - 2 段や稜の位置が下部にあり、内面のみが黒色処理される
- IV 外面の口縁部と体部の境に段や稜を有さないもの
  - 1 半球形のもの a 内面のみが黒色処理される
    - b 内、外面とも黒色処理される
      - i 小形
      - ii 大形、いわゆる壺を含む
  - 2 非半球形のもの a 内面のみが黒色処理される
    - b 内、外面とも黒色処理される (I～IVは丸底か丸底風の底部)
- V 外面の口縁部と体部の境にゆるい稜を有し、平底を呈する

B：内面がナデ調整されるもの

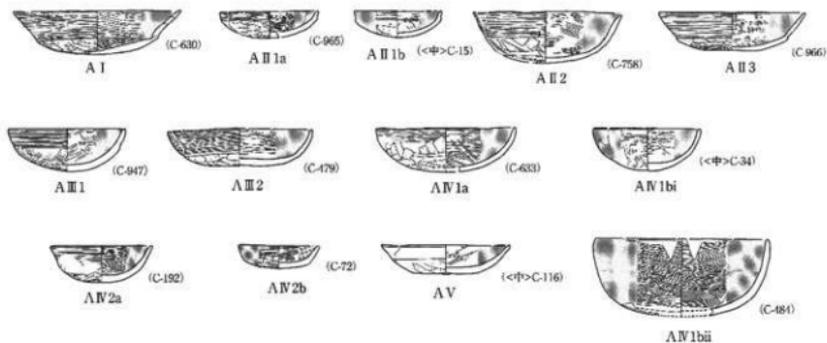
- I 口縁部の外面に沈線状の凹みがある
- II 口縁部の外面に「く」の字状の屈曲がある
- III 口縁部が短く直立気味に立ち上がるもの
  - 1 薄手のもの
  - 2 厚手のもの
- IV 口縁部に屈曲がないもの
  - 1 半球形のもの
  - 2 内弯するもの
- V 口縁部が直線的に内側に傾くもの
- VI 口縁部が直線的に外側に傾くもの

C：A、Bいずれとも特徴の異なるもの

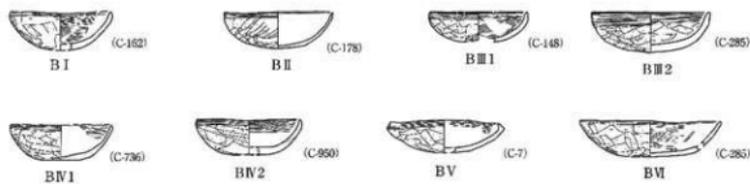
- I 胎土、調整技法から畿内産土師器と考えられるもの
  - 1 暗文のあるもの
  - 2 暗文のないもの
- II 口縁部の内面に沈線状の屈曲があり、内面が赤彩されるもの
- III 口縁部が内側に傾くか、直立するものが多く、稀に漆が塗られ黒色を呈するものがある
  - 1 口縁部が内側に傾くもの
    - a 内面の調整が主にナデのもの
    - b 内面の調整が主にヘラミガキのもの
  - 2 口縁部が直立するもので、内面ヘラミガキが施されるもの
  - 3 口縁部が外側に傾くか、漆が塗られ黒色を呈するもので、内面ナデ調整のもの
- IV 直接的に須恵器の模倣と考えられるもの
- V 小形品、あるいは特殊なもの
  - 1 小形品
  - 2 特殊

坏

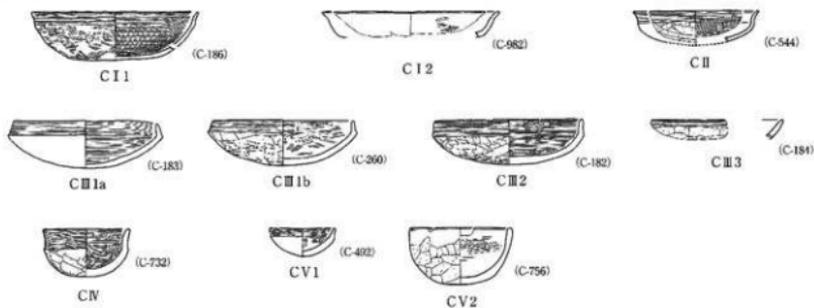
【A類】



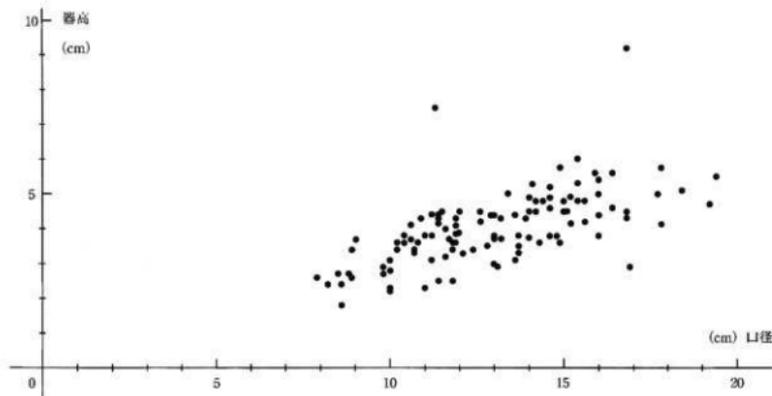
【B類】



【C類】



第209図 土師器分類図 (1)



第210図 土師器環A類径高分布図

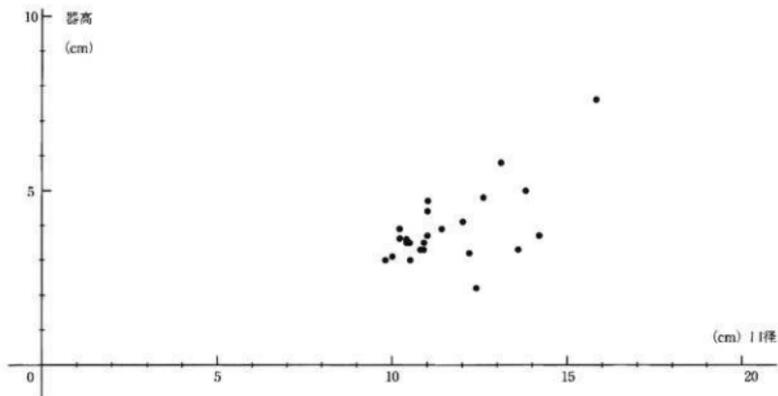
これらA類の径高分布を見ると器高が2～6cm、口径が8～17cmの範囲に広がっている。口径が9.5cm以下にやや集中があるように見えるが個体数が少なく、その規格を意識しているとは言えないであろう。分類に添った形態差でも特に顕著な集中を見出すことはできない。

口縁部に屈曲があり全体の器形が半球形のB類は、量的には少なく、SI79、SA1855(抜き取り)、SA1910(抜き取り)、SA1430、SX2093などで出土している。このような特徴を示す土師器は、昭和55年に発掘調査が開始された当時に方四町Ⅱ期官衙の外郭大溝であるSD35からも出土し、同じ頃に刊行された宮城県教育委員会による「清水遺跡」(宮城県名取市)、「日向前横穴古墳」(宮城県遠田郡田尻町)の報告により「…群馬県南部から埼玉県西北部に分布する鬼高式土器の後葉のものに近似していると言える。…」(註39)とされているもので、関東地方との関わりが指摘されていた。時期についても「栗園式の中で新しい段階のもの」の中に位置づけられている(註40)。この後にこの種の土師器が「関東系土師器」あるいは「関東系土器」と呼ばれるようになる。

このような形態の土師器環は埼玉県北部の八幡太神南遺跡(児玉郡上里町)や熊野遺跡(大里郡岡部町)などから出土している、関東地方における土師器環と、形態や製作技法などでほぼ同様の特徴を示すものである。本遺跡出土のB類の土師器環には口縁部の屈曲の様子や全体の形態から6種類に分類(BⅠ～BⅥ)された。径高分布を見ると器高が3～5cm、口径が10～11.5cmの範囲にやや集中が見られる。熊野遺跡において北武蔵型と呼ばれる土師器環でも同様の範囲に分布の集中が見られた(註41)。双方の土器がきわめて近い法量を意識して製作されていることを窺わせる。

これらの土師器は出土量が少ないうえに、Ⅰ期官衙の中で重複の古い時期の遺構からは、今のところ出土していない。よってⅠ期官衙の創建設階にはなく、Ⅰ期官衙の機能していたある時期から入り込み始めることを考えたい。

C類についてはA類、B類のいずれの特徴とも異なるものである。そのうちCⅠ類とした土師器C-186環は、A類の東北地方の土師器とは大きく異なり、内面に黒色処理がされず「暗文」と呼ばれるヘラミガキ状の筋が観察される。暗文は放射状に入れられた後に螺旋状に入れられている。土器の断面では、胎土が数回重ね塗りされたような層状を呈している。平底風の丸底で、口縁端部がわずかに外反し、内面は屈曲している。このような特徴の土師器は畿内地方で出土する土師器の特徴を有しており、「畿内産土師器」と呼ばれている(註42)。この土師器は畿内地方からの搬入されたものと見られ、畿内地方の編年では飛鳥Ⅲに位置付けられている(註43)。飛鳥Ⅲとされる土器形式の年代は識者によりややや標記の仕方に違いがあるが、7世紀第3四半期、660年代後半から670年代、あるいは近年は陶邑の須恵器との検



第211図 土師器坏B類径高分布図

討の中で上限を660年から667年前後で694年直前には飛鳥Ⅳとされる土器群が出現しているとする見解がある(註44)。紀年銘木簡や近傍に暦年代の明らかな遺跡などが無い以上、これらにより示された年代を慎重にはあるが、取り入れて考えなくてはならない。微細な土師器単体の特徴から識別することは難しいが、口径が7cm、器高が5cm程で、I緑部の屈曲が内側を向いていないことなどは、飛鳥Ⅲの代表的な遺構となる大官人寺SK121出土の土師器坏などに通ずる特徴であり、この形式の中に含まれる土器であることは受容できるものである。飛鳥Ⅲを660年代の後半以降で670年代とする見解(註45)に従うならば、搬入され廃棄されたことを考慮に入ると、その年代幅の後半か、飛鳥Ⅳの出現する680年代の前半頃までの時期の中に納まることを想定しておきたい。

CⅠⅠ類はこの他に3点出土している。いずれも小破片で遺構に伴っていないため、明確な時期などは明らかではない。第35次調査区の遺構検出面から出土したC-284坏は、暗文は観察されないが縦方向にミガキが入られ胎土の断面が層状となっている。また第68次調査区の遺構検出面から出土したC-629坏は、細い放射状の暗文が観察される小破片である。さらに第93次調査区の第Ⅴ層上面からはI緑部に丸みがあり、内面に沈線上の凹みのあるC-882皿の破片が出土している。暗文が観察されないためCⅠⅡ類としたが、胎土や器形からは畿内地方の土師器の特徴(註46)を示している。

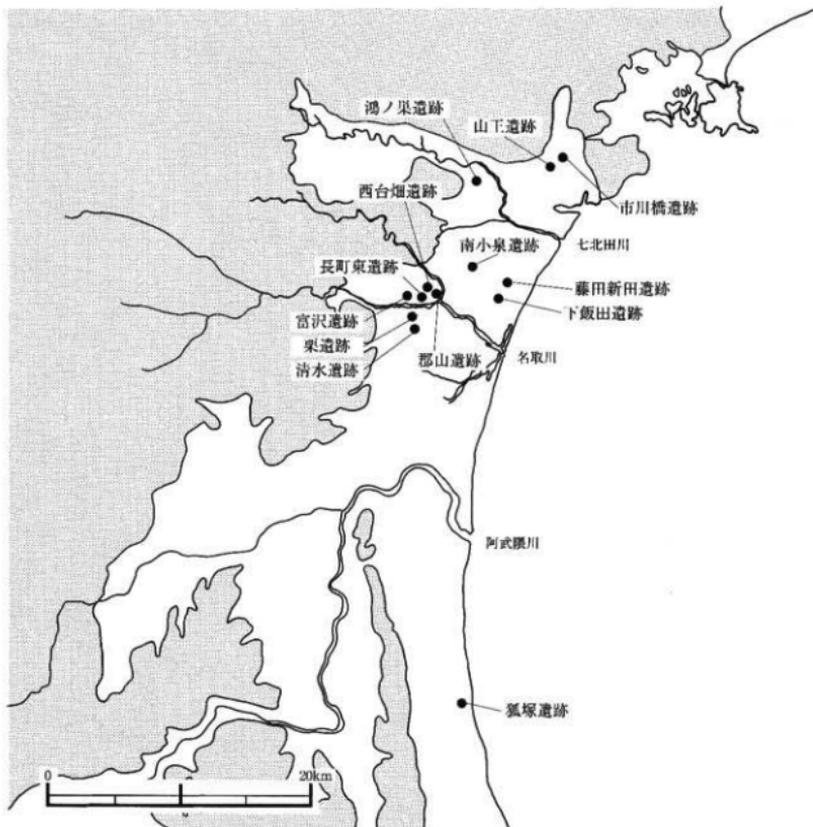
CⅡ類は第44次調査区のSB507柱穴掘り方(I期官衙)より出土したC-544坏で、I緑部の内面に沈線上の屈曲があり、内面全体が赤彩されている。このような特徴を示す土師器は関東地方の「比企型坏」と呼ばれるものである(註47)。比企型坏について検討をした水門由紀子氏の分類を参考にすれば、Ⅲ段階の第3小期からⅣ段階に位置付けられるようであり、この年代については6世紀末から7世紀中頃を中心とする時期(註48)が考えられる。またこのような坏を多く出土した埼玉県坂戸市稲荷前遺跡では、それらのうち「坏B類」とされるものにI緑部の形態や内面が赤彩される点で類似したものが見出される。このC-544坏については胎土も明らかに関東地方のもので、7世紀中葉には位置付けられる(註49)という見解がある。

土師器坏ではこの他に官衙以前の堅穴住居跡からCⅢ類とした、I緑部が内側に傾くか、直立し、稀に漆が塗られ黒色を呈するものが出土している。そのうち外面のI緑部と体部に明瞭な後縁を形成するCⅢⅠ類の形態は、千葉県地方との土師器の比較(註50)から、関東地方の土師器編年で古墳時代後期に位置付けられている鬼高式後葉の土師器に類似していることを指摘していた(註51)。遺跡内から初めて出土した昭和58年当時は、周辺での発見例が少ないことから、I期官衙建設に何らかの関わりを持つ人々に伴ったものであろうとした。しかしその後と同様の形態のものが、仙台平野内の南小泉遺跡や藤田新田遺跡、下飯田遺跡などで発見されている(第212図参照)。ただ

しこれらの土器についても、その見方や年代については複数の見解あり(註52)、評価は定まっていなかった。

そのような中でこれらの土師器について、長谷川厚氏は千葉県印旛沼周辺の土師器環に類似することを指摘した(註53)。また村田晃一氏は宮城県内の7世紀後葉から8世紀代にかけての土師器の検討の中で、この種の環を須恵器環の模倣と考え、関東地方からの移住に伴った土師器として捉えている。とくに7世紀中葉については1期官衙の造営に起因を求めている(註54)。また同氏は後にこれら須恵器環模倣形態の関東系土師器の上限年代を遡らせ6世紀後葉としている。さらに宮城県内での出土分布から7世紀中葉までには仙台周辺から宮城県南部の沿岸部と印旛沼周辺地域との交流圏が形成されたことを考えている(註55)。

これらの土師器は一般的には「関東系土師器」と呼称されているが、当初この名称の使用された土器は、半球形の形態のものについてであって、本著で分類したB類である。各々の土器の出自や年代の違うものを同名称で呼称するのは妥当とは言えないと考える。したがって「関東系土師器」と呼称するのは、B類の土師器に限るべきである。この呼称の仕方については村田氏も前述の論考(註56)の中で、長谷川氏の指摘などを取り入れて一考を加えているが、半球形の形態との識別という視点とは異なっている。B類については「関東系土師器」と呼称して差し支えない



第212図 鬼高系土師器の分布

が、村田氏の言う須恵器環状形態の土師器、すなわち木遺跡というCⅢ類については、違うものであることを明確にするために、関東地方の土師器で古墳時代後期の型式名の呼称に留意し「鬼高系土師器」として扱うことにする。

遺跡内から出土した鬼高系土師器のうちCⅢ1a類は、関東地方の土師器の製作技法や胎土、漆仕上げが行われているものがあり、一見しては関東地方の土師器とは識別することが難しい(註57)。これらの土師器を兼入品とするか、東北において関東地方の人々が直接、製作したものとするか以外には理解することが出来ないであろう。

CⅢ1a類と形態が同じであるが、CⅢ1b類には内面にヘラミガキが施されている。1期官衙創建以前のSI260出土のC-183坏は、CⅢ1a類でヘラミガキは施されていない。SI301やSI2084出土の鬼高系土師器にはヘラミガキが多用されているので、CⅢ1b類とした。しかも内面黒色処理された在地の特徴を示す土師器の坏が共存している。このことは鬼高系土師器のみで構成されていた土器群に在地の土器が共存し、関東地方の製作技法に東北地方で盛行するヘラミガキの技法が転化されたことと見ることが出来ないであろうか。そうであればCⅢ1a類からCⅢ1b類への変化が想定され、そこに時間幅あるいは前後関係の設定が可能となろう。

本遺跡では鬼高系土師器の出土する竅穴住居跡からは須恵器が出土していないため年代の検討が難しい。これらの住居跡は1期官衙の遺構に切られているため、1期官衙の上限年代より遡ることは確実である。これまで1期官衙は須恵器や畿内産土師器の年代観などから、7世紀の中頃から末頃までの後半代(註58)としてきた。それより以前ということになれば、他遺跡の検討での6世紀末葉から7世紀中葉とする年代観(註59)とは矛盾するものではないであろう。CⅢ1b類と共存している東北地方の特徴である内面黒色処理された土師器坏を見る限り(SI301:C-276・262、SI2084:C-923)では、官衙期の遺物から断絶したのではなく、官衙と連続する時期のものと考えられる。また別項(註60)で検討を加えるが、SI301からは桶巻き作りの平瓦片が出土している。これをどのように捉えるかは難しい問題があるが、とりあえず混入とは見ていないので、遺構、遺物の年代の下限は7世紀半ばより大きく遡ることはありえないと考えている。したがってCⅢ1b類の年代は7世紀の中ば近くであろう。

では先行するCⅢ1a類の上限はどこまで遡るのであろうか。同様の土器を出土した南小泉遺跡第22次調査では、「A種土器群」として扱われ、東北地方の土師器編年で栗園式の前の住式期の土師器に関連付け、6世紀末葉頃という見解を出している(註61)。また清水遺跡(名取市清水遺跡)の調査でもCⅢ1a、b類と同種の七器を住式に位置づけられている。しかしここでは住式期の型式設定された当時の土器群の中には、鬼高系土師器は含まれていないことを重視したい。現在、郡山遺跡の西に隣接する西台畑遺跡や長町駅東遺跡において200軒以上の竅穴住居跡が発見され、調査されている。その中でも鬼高系土師器が含まれている。関東地方の鬼高式の土師器の中でどのくらいの時期に位置付けられるのか、どのような遺物と共存しているのか、上限年代については新たな検討を加えて判断して行く必要がある。

## 壺

壺は形態から長胴形のもの[A類]と胴張り形のもの[B類]に分けられたが、図化可能な遺物を出土した遺構が極めて限られている。図化した遺物の77%が方四町Ⅱ期官衙内のSE429井戸跡から出土したものである。それ以外の遺構では土師器壺は、出土することが少なかった。したがってここで取り上げた壺は、形態差があってもSE429から出土しているものが多く、それらは同時期の遺物である。

A、B類ともI類としたものは体部外面にハケメが施されるもので、東北地方の土師器の特徴を示している。特に東北地方で一般的に見られる体部と口縁部の境にくびれがあり、口縁部が反外気味となるもの(AI1類)は、高さ20cmを境にして大小(a、b)に分けられる。しかし体部と口縁部の境にくびれがなく口縁部が直立気味となるもの(AI2類)も含めて、出土した壺類の中では量的には少ない状況にある。むしろ胴張り形のB類の方が出土量は多くなっている。ハケメ調整が顕著で最大径が体部の中央にあるBI1類については器高が15~25cm、口径が12.5

[土師器分類 (2)]

甕

A: 長胴形のもの

- I 体部外面の調整が主にハケメであるもの
  - 1 体部と口縁部の境にくびれがあり、口縁部が外反気味となるもの
    - a 小形のもの 高さ 20cm以下
    - b 大形のもの 高さ 20cm以上
  - 2 体部と口縁部の境にくびれが明瞭になく、口縁部が直立気味となるもの
- II 体部外面の調整が主にヘラケズリであるもの
  - 1 体部と口縁部の境にくびれがあり、口縁部が外反気味となるもの
  - 2 体部と口縁部の境にくびれが明瞭になく、口縁部が直立気味となるもの
- III 口縁部中に段差のあるもの
- IV 体部外面の調整が主にヘラナデであるもの

B: 胴張り形のもの

- I 体部外面の調整が主にハケメであるもの
  - 1 体部の最大径が中央にあり、口縁部が外反気味となるもので平底
  - 2 体部の最大径が中央にあり、口縁部が短く外反するもので平底
  - 3 体部の最大径が下半にあり、口縁部が外反気味となるもので平底
  - 4 体部の最大径が下半にあり、口縁部が短く外反するもので平底
- II 体部外面の調整が主にヘラケズリであるもの
  - 1 体部の最大径が中央にあり、口縁部が外反気味となるもので平底
  - 2 体部の最大径が中央にあり、口縁部が短く外反するもので平底と丸底
  - 3 体部の最大径が下半にあり、口縁部が外反気味となるもので丸底
  - 4 体部の最大径が下半にあり、口縁部が短く外反するもので丸底
- III 体部外面の調整が主にヘラミガキであるもの
- IV 体部外面の調整が主にヘラナデであるもの

小型甕

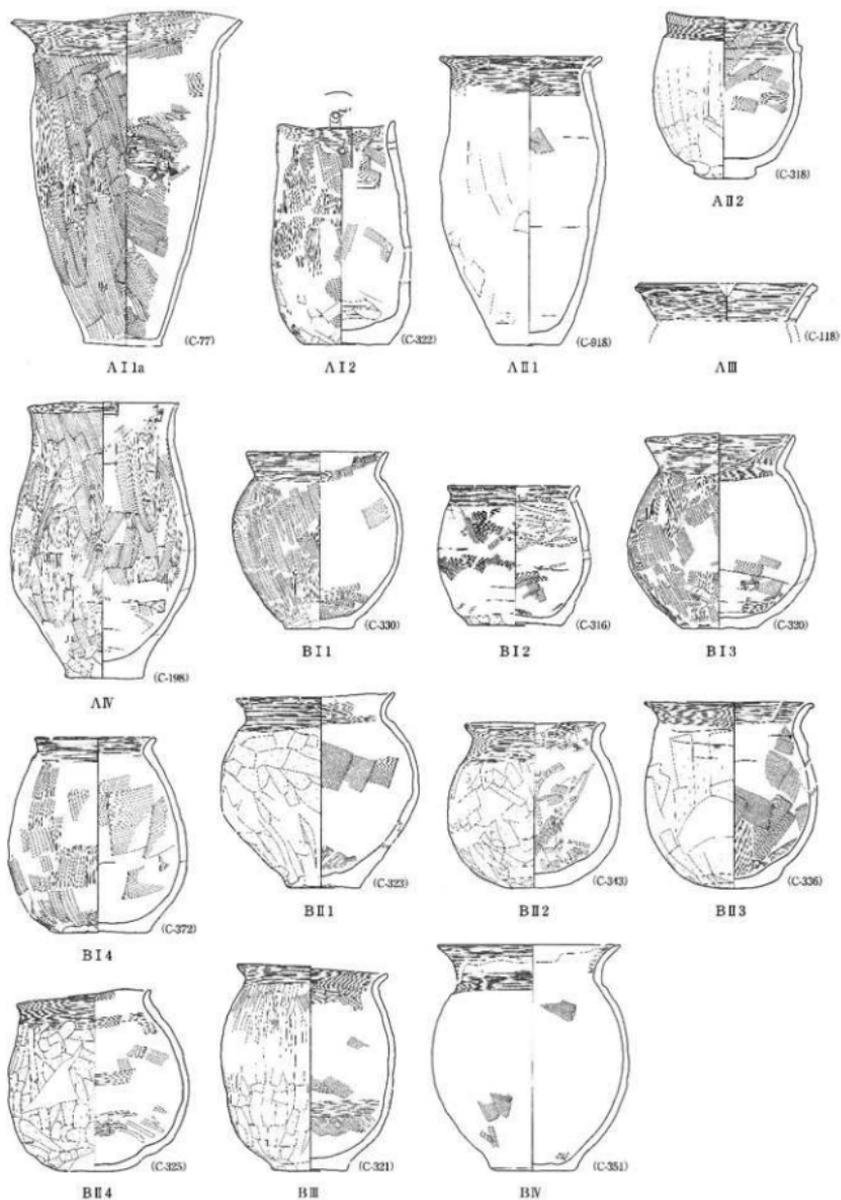
体部中に括れないもの

- I 体部外面の調整が主にハケメであるもの
- II 体部外面の調整が主にヘラケズリであるもの

壺

口縁部や頸部が著しく狭まっているもの

- I 口縁部と体部の境がすばまっているもの
  - 1 小形のもの いわゆる「小型壺」
  - 2 大形のもの
- II 口縁部と体部の境に変化のないもの



第213圖 土師器分類圖(2)